

長野県松本市

*HONGŌTAKADA*

本郷高田遺跡

*YANAGIDA*

柳田遺跡 3

—発掘調査報告書—

2024.9

松本市教育委員会

## 例言

- 1 本書は、平成6年5月16日～6月13日に実施した松本市浅間温泉二丁目9番2号ほかに所在する本郷高田遺跡と、平成10年6月4日～10月9日に実施した同浅間温泉一丁目214番1ほかに所在する柳田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本郷高田遺跡の発掘調査は松本市のぼら保育園・浅間児童センターの移転改築事業に伴う緊急発掘で、松本市から委託を受けた㈱松本市教育文化振興財団が実施した。柳田遺跡の発掘調査は松本市消防団第23分団詰所建設事業に伴う緊急発掘で、松本市教育委員会が実施した。両発掘調査の整理事業・報告書作成は松本市教育委員会が令和6年度に実施した。
- 3 本書の執筆分担は次のとおり。Ⅰ：事務局、Ⅲ-3(2)：原田健司、その他：直井雅尚
- 4 本書の作成にあたっての作業分担は次のとおり。  
遺物洗浄・注記・接合・復元：内沢紀代子、内田和子、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江、三澤栄子  
遺物実測・拓本・デジタルトレース：佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、直井知導、原田健司、前沢里江、宮本章江  
遺構図調整・デジタルトレース：荒井留美子 DTP：前沢里江 編集：直井雅尚  
その他、高山いづ美、廣田早和子、壬生量子の助力を得た。
- 5 本文、図・表中での遺構略称は次のとおり。竪穴建物：住、掘立柱建物：建、土坑：土、ピット：P、ロームマウンド：LM
- 6 土器類実測図の断面表現は次のとおり。白抜き：縄文土器・土師器・黒色土器、黒塗り：須恵器、灰色：繊維含む土器
- 7 図中で用いた方位記号は座標北（世界測地系）を指している。
- 8 発掘調査と本書作成にあたって次の方々からご教示、ご指導をいただいた。記して感謝を申し上げる。  
桐原 健、小松 学、島田哲男、鳥羽英継、原 明芳、宮本長二郎、百瀬長秀
- 9 本書で用いた古代の遺構・土器の時期区分、用語は参考文献2・3に拠った。
- 10 本調査で出土した遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 ☎0263-86-4710）に収蔵されている。

### 【参考文献】

- 文献1 原明芳 1989「吉田川西遺跡にみられる食器の変容」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3—塩尻市内その2—吉田川西遺跡』長野県教育委員会、長野県埋蔵文化財センター
- 文献2 小平和夫 1990「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』長野県教育委員会、長野県埋蔵文化財センター
- 文献3 鳥羽英継 1999「第5章第1節 土器」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26—更埴市内その5—更埴条里遺跡・屋代遺跡群（含む大境遺跡・窪河原遺跡）—古代1編—』長野県教育委員会、長野県埋蔵文化財センター
- 文献4 松本市教育委員会 1979『松本市大村遺跡群柳田遺跡分布確認調査報告書』
- 文献5 松本市教育委員会 1988『松本市文化財調査報告No.66 松本市杵坂遺跡・本郷小学校敷地遺跡』
- 文献6 松本市教育委員会 1989『大村遺跡 古瓦を出土する平安時代集落址の発掘調査概報』
- 文献7 松本市教育委員会 1989『松本市文化財調査報告No.69 松本市千鹿頭北遺跡』
- 文献8 松本市教育委員会 1991『小池遺跡—平安時代集落址の発掘調査—』
- 文献9 松本市教育委員会 1992『松本市文化財調査報告No.94 松本市宮の前遺跡』
- 文献10 松本市教育委員会 2017『松本市文化財調査報告No.226 三間沢川左岸遺跡』
- 文献11 長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7—松本市内その4—南栗遺跡』
- 文献12 長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8—松本市内その5—北栗遺跡』

## 目次

例言・目次	2
Ⅰ 調査の経緯	3
Ⅱ 遺跡の環境	5
Ⅲ 本郷高田遺跡の調査	
1 調査の概要	7
2 発見された遺構	7
3 出土遺物	14
Ⅳ 柳田遺跡の調査	
1 調査の概要	21
2 発見された遺構と遺物	21
Ⅴ 総括	25
写真図版	26
報告書抄録	32

# I 調査の経緯

## 1 調査の経過

**本郷高田遺跡** 松本市（当時の担当は児童福祉課）により、松本市浅間温泉二丁目9番2号において松本市立のぼら保育園・浅間児童センターの移転改築事業が計画されたが、予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地本郷高田遺跡の範囲内にあった。松本市教育委員会（当時の担当は文化課）は遺跡が破壊される部分の記録保存を図ることとし、松本市から委託を受けた(財)松本市教育文化振興財団（担当は考古博物館）が平成6年5月16日から6月13日の間、発掘調査を実施した。調査終了後の6月17日に市教委は埋蔵文化財拾得届と同保管証を松本警察署に提出し、6月28日付で長野県教育委員会から埋蔵物の文化財認定をうけた。

**柳田遺跡** 松本市（担当は消防防災課）により、松本市浅間温泉一丁目214番1地籍において松本市消防団詰所の建設が計画されたが、予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地柳田遺跡の範囲にかかる可能性があった。松本市教育委員会（担当は文化課）が試掘調査を行ったところ遺構の存在が確認されたため、引き続き発掘調査に移行し記録保存を図った。試掘調査も含めた調査期間は平成10年6月4日から同年10月9日までである。調査終了後に市教委は埋蔵文化財拾得届と同保管証を松本警察署に提出し、11月5日付で長野県教育委員会から埋蔵物の文化財認定をうけた。また、発見された掘立柱建物等の遺構について発掘期間中の6月16日に桐原健氏（松本市文化財審議委員）、7月17日に宮本長二郎氏（東京国立文化財研究所）の現地指導を得た。

**整理作業・報告書刊行** 両発掘ともに現場作業に引き続き出土品や測量図等の基礎的な整理作業を実施したが、正式な発掘調査報告書の刊行には至らず、令和6年度に出土品等の再整理を行い本書を刊行した。

## 2 調査体制

### 本郷高田遺跡（平成6年度）

調査団長 守屋立秋（松本市教育長） 調査担当 竹内靖長（主事）、村田昇司（嘱託）

発掘協力者 飯田三男、岡村行夫、河上純一、小松正子、斎藤政雄、鶴川 登、寺島貞友、中島新嗣、中村恵子、藤井源吾、藤井マツエ、藤井道明、深井美登利、布山 洋、増沢 治、三沢元太郎、百瀬二三子、吉田 勝

事務局 文化課：岩渕世紀（課長）、木下雅文（文化係長）、窪田雅之（主任）、遠藤 守（主事）

松本市教育文化振興財団：大池 光（事務局長）、熊谷康治（考古博物館長）、松澤憲一（主査）、関沢 聡（主任）、久保田剛（主事）、秋山圭子（嘱託）

### 柳田遺跡第3次（平成10年度）

調査団長 守屋立秋（松本市教育長） 調査担当 田多井用章（主事）

発掘協力者 岡村行夫、久保田登子、田中一雄、藤井道明

事務局 木下雅文（文化課長）、熊谷康治（課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、近藤 潔（主事）、久保田剛（同）、上條まゆみ（嘱託）

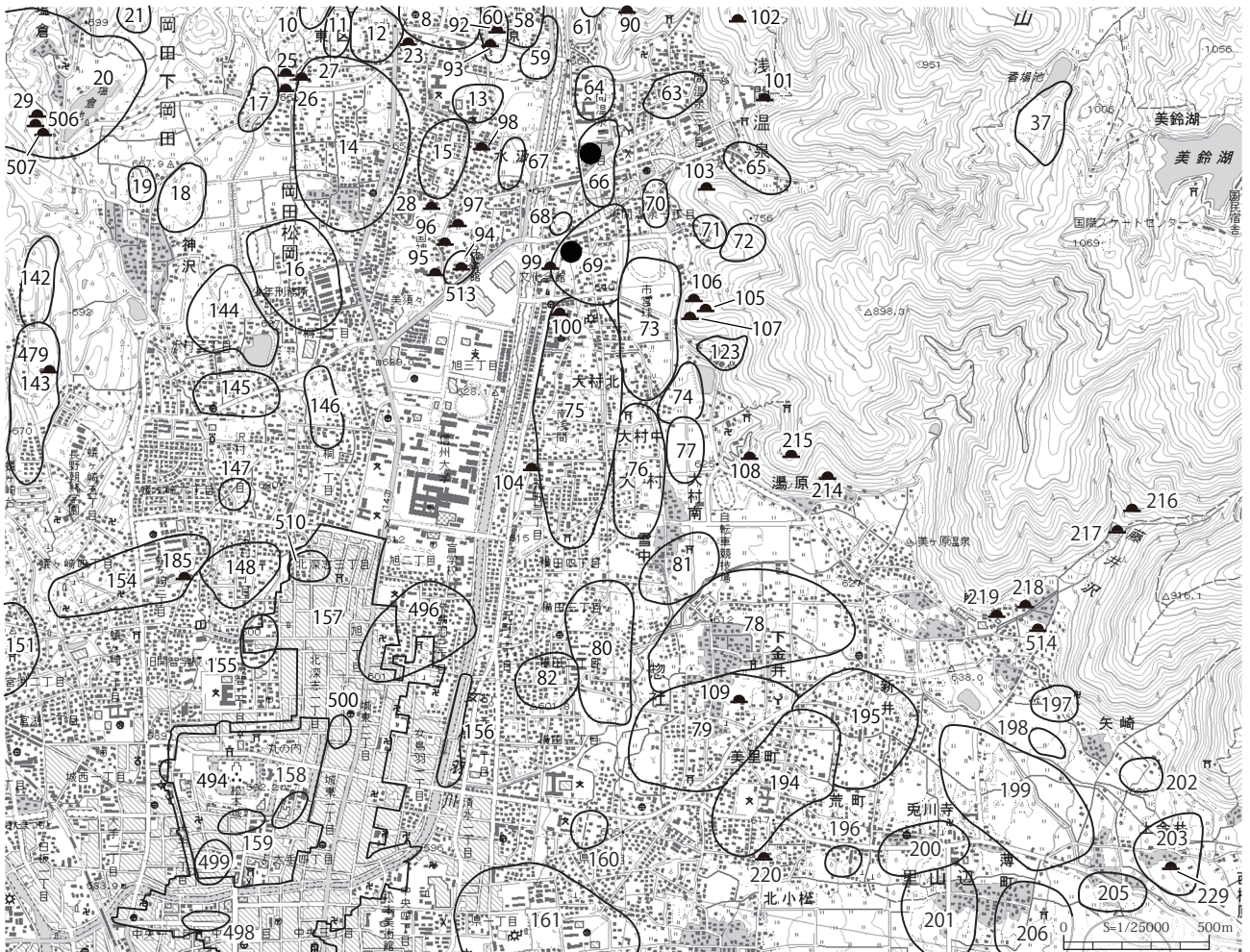
### 整理作業・報告書作成（令和6年度）

整理担当 原田健司（主査）、直井雅尚（会計年度任用職員）

整理協力者 荒井留美子、内田和子、久保田瑞恵、佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、直井知導、中澤温子、洞沢文江、前沢里江、三澤栄子、村山牧枝

事務局 田多井用章（文化財課長）、櫻井 了（埋蔵文化財担当係長）、原田健司、吉見寿美恵（会計年度任用職員）





●は今回の調査地

集落

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
10	岡田神社裏遺跡	弥・平	61	北の窪遺跡	縄	79	宮北遺跡	弥・古・平・中	195	新井遺跡	弥〜平
11	岡田堀ノ内遺跡	平・中	63	鳥居前遺跡	弥・古	80	横田遺跡	縄・平	196	荒町遺跡	弥・平
12	岡田中遺跡	平	64	本郷上高田遺跡	縄・古・平	81	大村塚田遺跡	縄・弥	197	藤井山田遺跡	平
13	杵坂遺跡	縄・平	65	大音寺遺跡	弥	142	神沢遺跡	縄	198	藤井遺跡	平
14	岡田松岡遺跡	縄・古〜平	66	本郷高田遺跡	縄・古	143	峰ノ平遺跡	縄	200	鬼川寺遺跡	古〜平
15	松岡七日市場遺跡	古・平	67	水汲西原遺跡	縄〜古	144	狐塚遺跡	縄・古〜平	202	上金井矢崎遺跡	縄・中
16	トウコン原遺跡	縄・古〜平	68	芝田遺跡	縄・弥・奈・平	146	元原遺跡	古〜平	203	上金井遺跡	縄
17	天神ノ木遺跡	平	69	柳田遺跡	縄・奈・平	147	沢村北遺跡	弥	205	里山辺鎌田遺跡	縄〜古
18	笠原遺跡	奈・平	70	新湯南裏遺跡	縄	148	沢村遺跡	縄〜平	206	薄町遺跡	縄・平・中
19	土田遺跡	平	71	真観寺遺跡	古・平	151	狐山腰遺跡	縄〜古	496	岡の宮遺跡	弥・古・平
20	塩倉池遺跡	旧・縄・古・平	72	飯治洞遺跡	古・平	155	田町遺跡	縄・古	498	伊勢町遺跡	中
21	御宝殿遺跡	平	73	大村遺跡	弥〜中	156	女鳥羽川遺跡	縄〜古	499	土居尻遺跡	古
37	番場遺跡	平	75	大輔原遺跡	古〜平	158	丸の内遺跡	縄	500	片端遺跡	弥
58	宮の上遺跡	奈〜中	76	大村立石遺跡	縄・古・奈・平	159	大名町遺跡	縄・中	510	堂町遺跡	古・平
59	原五反田遺跡	弥・古・平	77	大村前田遺跡	弥〜平	160	四ツ谷遺跡	弥・奈・平	513	水汲遺跡	古・平
60	下屋敷遺跡	縄・古	78	惣社遺跡	縄・古・平	194	里山辺下原遺跡	古〜平			

集落・その他の墓

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
74	大村古屋敷遺跡	弥〜中	145	旧射的場西遺跡	縄・古〜中	161	泉町遺跡	弥〜中	201	針塚遺跡	縄・弥・奈〜中
82	横田古屋敷遺跡	弥・古・平	154	蟻ヶ崎遺跡	奈・平	199	堀の内遺跡	縄〜中			

古墳

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
23	岡田猫塚古墳	93	塚畑古墳	101	横谷入古墳	185	饅頭塚遺跡	229	上金井(里山辺12号)古墳
25	矢崎1号古墳	94	水波1号古墳	102	御殿山古墳	214	御母家1号(里山辺5号)古墳	479	峰ノ平1号古墳
26	矢崎2号古墳	95	水波2号古墳	103	桜ヶ丘古墳	215	御母家2号古墳	506	塚山2号古墳
27	矢崎3号古墳	96	水波3号古墳	105	妙義山1号古墳	216	山田入古墳	507	塚山3号古墳
28	松岡古墳	97	水波4号古墳	106	妙義山2号古墳	217	里山辺丸山古墳	514	藤井3号古墳
29	塚山1号古墳	98	水波5号古墳	107	妙義山3号古墳	218	藤井1号(里山辺8号)古墳		
90	茶白山古墳	99	大屋敷1号古墳	108	桃仙園古墳	219	藤井2号(里山辺15号)古墳		
92	原下屋敷古墳	100	大屋敷2号古墳	109	惣社車塚古墳	220	荒町(里山辺1号)古墳		

近世

No.	遺跡名	種別	時代
157	松本城下町跡	町屋・武家地・寺社	中・近
494	松本城跡	城跡	中・近

窯跡

No.	遺跡名	種別	時代
123	大村新切古窯址	窯跡	古

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡



## II 遺跡の環境

### 1 地理的環境

本郷高田遺跡と柳田遺跡は、松本市街の東方を北から南へ一直線に流下する女鳥羽川下流域の左岸沿いに北から南に並ぶように位置する。本郷高田遺跡は浅間温泉二丁目から一丁目にかけて南北 360 m、東西 160 m の範囲に広がる。柳田遺跡はその南界に接し浅間温泉一丁目を中心に南北 420 m、東西 310 m の範囲に及ぶ。今回報告の調査地点は、前者が遺跡中央部北寄りに位置し海拔 653 m、後者は遺跡西端部北寄りで海拔 642 m 付近になる。両遺跡が展開する一帯は、北の浅間温泉から南の横田地籍まで続く女鳥羽川左岸の南北に延びる微高地で、南に向かって緩傾する。微高地の西端には北から本郷上高田・本郷高田・芝田・柳田・大輔原の 5 遺跡が約 2km にわたって連なり、海拔は最も高い本郷上高田遺跡北部で 660 m、最も低い大輔原遺跡南部で 613 m を測る。浅間温泉や東方の山地に発する小河川はすべてこの微高地を東西に横断することなく南へ流下し、横田、惣社地籍に至って西流する湯川に合する。この微高地の東側には山麓地帯との間に狭い範囲ではあるが北から南、南東へと延びる水はけの悪い低地があったが、現在はほ場整備や宅地造成などによって不明瞭になっている。また、微高地の西側を南流する女鳥羽川は現在は南北一直線のきわめて不自然な流路をとっており、大輔原遺跡より下流では河道下から縄文、弥生、古墳の各時代の遺構や遺物が発見されている。これらはその当時、河道が現在地になかったことを示すもので、現河道はおそらく中世末から近世初期にかけて大規模な人為的改変が行われた結果と考えられる。それ以前の主要流路は柳田遺跡や大輔原遺跡付近から南南西に向かっていた可能性を想定したい。原始、古代にあっては一帯の状況は現在とはかなり異なっていたと考えるべきであろう。

### 2 歴史的環境

#### (1) 遺跡分布と歴史的な特徴

両遺跡が載る前述の微高地上には多くの遺跡（第 1 図 64・66・69・73～77・80～82 等）が展開し「浅間・大村・横田微高地遺跡群」ともいふべき在り方をみせる。遺跡の時期は縄文時代から中世まで多岐にわたり、各時代に居住適地として利用されたことがわかる。また、東方の山上、山麓には桜ヶ丘古墳、妙義山古墳群、桃仙園古墳など中期に遡る古墳が築かれており、一帯の開発の古さと政治的な重心の存在を物語る。さらに、古代の文献に残る駅名から令制東山道の通過地域と推定され、大村や浅間温泉、南隣の惣社地籍は国府推定地に挙げられる等、信濃（科野）の古代史を探るうえできわめて重要な地域である。

#### (2) 周辺の発掘調査成果

今回の報告に関わる古墳時代から奈良・平安時代に絞って、周辺でのこれまでの発掘調査成果をみてみたい（カッコ内の数字は第 1 図の遺跡番号を示す）。

古墳時代は、本郷高田遺跡（66）、大村遺跡（73）、大村古屋敷遺跡（74）、大輔原遺跡（75）などで中・後期の竪穴建物が発見されている。中期は大村古屋敷遺跡の 7 棟のみだが、後期には本郷高田遺跡 2 棟（今回報告）、大村遺跡 7 棟、大村古屋敷遺跡 8 棟、大輔原遺跡 3 棟があり、後期になって集落が微高地上で大きく展開した様子が見える。微高地東方の山上に築かれた桜ヶ丘古墳（103）、妙義山 2 号古墳（106）は昭和 30・31 年の発掘調査で竪穴系の埋葬主体を持つ、中期に遡る古墳と判明した。前者からは金銅製天冠、衝角付冑、長方板革綴短甲、刀剣類 6、多数の鍬と玉類、後者からも刀 3、鍬 70 余、馬具、玉類や耳環などの装身具多数が発見された。5 世紀後半から 6 世紀における地域の首長墓級の古墳と推定されている。

奈良・平安時代になると、柳田遺跡（69）、大村遺跡（73）、大村古屋敷遺跡（74）、大輔原遺跡（75）、大村前田遺跡（77）、宮北遺跡（79）など多くの遺跡から多数の竪穴建物が発見されている。既報告に限っても大村遺跡 19 棟、大輔原遺跡 28 棟、大村古屋敷遺跡 27 棟、大村前田遺跡 3 棟などで、ほかに未報告

が70棟以上あり、この一帯に大きな集落がいくつも形成されていたことがわかる。さらに大村古屋敷遺跡の緑釉陶器を副葬した墓、大村遺跡での多数の緑釉陶器と鴟尾を伴う大量の古瓦、大輔原遺跡と大村遺跡での複数の円面硯と銅銚、大村古屋敷遺跡の銅製八稜鏡など特殊な遺構・遺物の発見が相次いでいる。これらは微高地上でも北端部の浅間温泉周辺にまとまる傾向がある。



地点	調査名	原因事業	調査年	調査成果概略
1	柳田遺跡 1次	県営住宅	1979(S54)	住3、集石2(縄文中期)、縄文晩期土器
2	柳田遺跡 2次	民間アパート	1990(H2)	住1(古代)、建2
3	柳田遺跡 3次	消防団詰所	1998(H10)	建1
4	本郷上高田遺跡 1次	本郷小学校	1987(S62)	溝、流路
5	本郷上高田遺跡 2次	本郷支所	1993(H5)	住5(縄文、古代)、土坑
6	本郷上高田遺跡 3次	本郷小学校プール	1996(H8)	遺構なし
7	本郷高田遺跡 1次	のぼら保育園	1994(H6)	住3・建1(古墳末)、土坑(縄文前期)
8	芝田遺跡 1次	民間店舗	2013(H25)	縄文晩期遺物
9	大村遺跡 1次	テニスコート	1986(S61)	住1、建1
10	大村遺跡 2次	クラブハウス	1987(S62)	住2(古代)
11	大村遺跡 3次	市住・市道	1988(S63)	住23(古代)
12	大村遺跡 4次	市住	1989(H1)	住60(古代)
13	大村遺跡 5次	野球場	1989(H1)	住2(古代)

第2図 調査地と周辺調査地点

### Ⅲ 本郷高田遺跡の調査

#### 1 調査の概要

調査地 保育園の建設工事で遺跡が破壊される範囲を対象としたが、諸般の制約があり調査地は西側 2/3 の A 区と残りの東側部分の B 区の 2 地区に分かれた。調査面積は A 区 637.3㎡、B 区 251.9㎡、合計 889.2㎡ である（第 3 図）。

調査 パワーショベルで表土を除去、遺構検出面付近まで削り込んだ後、人力で遺構検出を行い、確認できた順に遺構番号を付して掘り下げた。出土遺物の取り上げは掘り下げ区画ごとの一括を基本とし、出土状況が良好なものは地点を記録した。遺構測量は簡易遣り方により 1/20 縮尺の平面図と土層図を作成、写真撮影は遺構の完掘や細部、遺物出土状況をカラーとモノクロの 35mm ネガフィルムで行った。

整理 市立考古博物館内で実施した。遺構図は平面・断面の組み合わせ調整後にデジタルトレースを行い、ロームマウンドとピット 2 基以外を縮尺 1/80 で掲載した。出土遺物は洗浄、接合の後、近現代の混入品を除き全点を計量し、可能なものを実測した。遺物のトレースはデジタルで行った。

標準土層 表土・耕作土（Ⅰ層）が 20～40cm、水田の影響を受けた粘性の強い灰色シルト質土（Ⅱ層）、同様の黄灰色シルト質土（Ⅲ層）が 20～30cm の厚さで続き、その下部は粘性の強い黒褐シルト質土（Ⅳ層）が 10～15cm で、徐々に同質の暗黄褐土（Ⅴ層）に漸移し、ほとんどの遺構はⅣ層中位からⅤ層上部で検出した。Ⅳ・Ⅴ層には地点によって若干の礫が伴った。

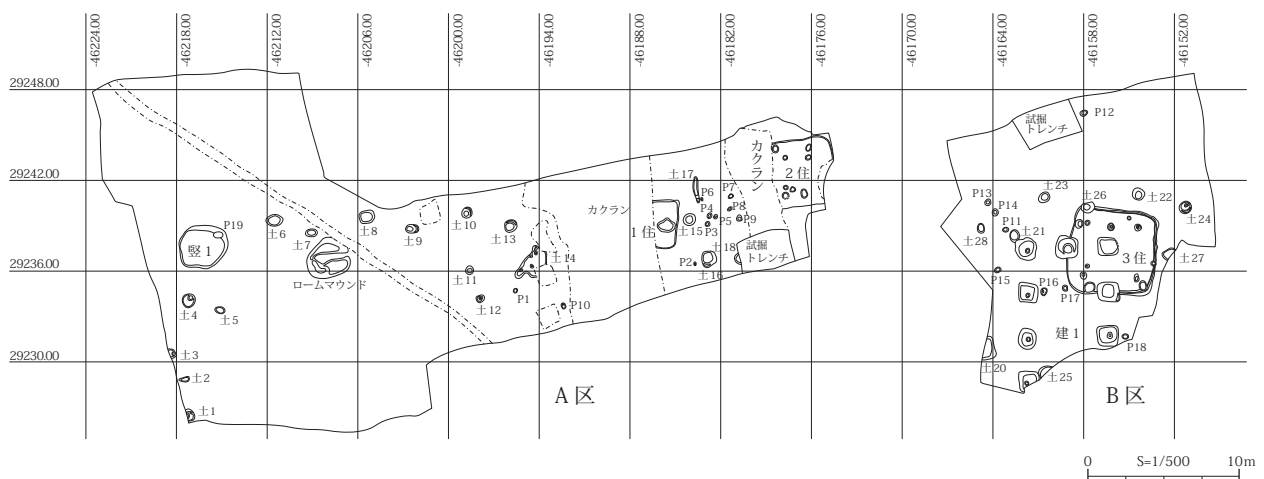
#### 2 発見された遺構

##### (1) 竪穴建物（第 1 表、第 4 図）

A 区で 2 棟、B 区で 1 棟の計 3 棟を検出した（遺構番号は 1～3 号）。A 区東側から B 区にかけて分布している。出土遺物によって推定される時期はすべて古墳時代後期～末である。

第 1 号竪穴建物 A 区東側に位置する。西半分を攪乱で失い、土 19 にも大きく切られる。完存する東壁は 3.2 m、北壁と南壁の残存部はそれぞれ 1.6 m と 1.1 m で、本来の平面形は一辺 3 m 前後の方形を呈していたと推定する。床面には緩やかな起伏があり、検出面からの深さは 12～20cm を測る。北半のピット 2 基以外に付随する施設の検出はなかった。

第 2 号竪穴建物 A 区東端に位置する。平面形は一辺が 4.4 m ほどの隅丸方形と推定するが、南東コーナーの一角は調査区外、西壁と北西・南西コーナーは削平をうけて、いずれも詳細は不明である。南北軸はほぼ北を指している。床面には緩やかな起伏があり、検出面からの深さは 15～25cm を測る。ピットは 8 基確



第 3 図 本郷高田遺跡全体図



認められたが径や深さが柱穴とは思えないものが多く、柱穴配置の推定はできない。床面中央部北と南の焼土 (F1・F2) はカマド痕跡とするには位置的に無理があり、カマドの有無、位置は推定できない。

第3号竪穴建物 B区中央部南東寄りにあり、建1 (P2～P4) と土26に切られる。平面形は5.8×5.6mの隅丸方形を呈し、主軸方向N88Wを指す。床面はほぼ平坦で、検出面からの深さは25～35cmを測る。西壁と南壁西半を除く壁直下に幅12～15cm、深さ10cm前後の壁際溝(周溝)が巡る。西壁中央部の建1掘方(P2)に破壊される付近に焼土(F1)が認められ、カマドは西壁中央に設けられていたと推定する。ピットは12基検出された。P2・P3・P5・P8・P9・P11の6基は方形に配列し、うちP5・P8には柱痕らしき土層がある。これらが支柱穴であろう。また壁際のP7・P10にも柱痕らしき土層や底面の凹凸があり、他より径が大きい。支柱穴とは別の役割を持つものの可能性がある。

#### (2) 掘立柱建物 (第1表、第5図)

B区南半部で1棟を検出した(1号)。3住の南西部を切っている。南部が調査区域外にかかるので全容は不明だが、梁行2間、桁行3間以上の側柱式建物で、調査部分では5.4×9.2mを測る。柱間は梁方向が270cm、桁方向が300cmほどとみられる。主軸は桁行方向でN2Wを指している。掘方は8基(P1～P8)が確認された。平面形は一辺110～140cmの方形を基調とするが不整なものもある。断面形は深さ80～96cmで方形や逆台形を呈す。埋土の土層は水平に埋め戻された状況を示している。また大小の礫を意図的に詰めながら埋め戻した様子がP1～P5でうかがえる。柱痕はP6を除くすべてで確認された。太さは20cm前後、P1・P2・P5～P8では掘方の底面よりも深く切り込んでいる。本址は7世紀後半に属する3住を切っているが、掘方から出土した土器のうち時期が推定できるものはすべて7世紀後半～末なので、本址の時期もそこに求められると考える。

#### (3) 竪穴状遺構 (第6図)

A地区西端で1基が確認されている(1号)。P19に切られる。平面形は南北2.8m、東西3.2mのきわめて不整な楕円形を呈し、深さは最深部で70cmを測る。壁の傾斜は緩く底面との境界は不明瞭で、底面も凹凸に富む。埋土の土層は周囲から埋まった状況を呈すが、中央部に直立気味の土層境界線があり、特殊な埋没や埋め戻しが行われたか、本址に切り込む平面では捉えられなかった別の土坑が存在した可能性を示している。出土遺物でみると、縄文時代前期から中期前半までの土器が出土しており、特に前期前葉のものがまとまっているため、2基(2基以上)の遺構が重複していた可能性もある。

#### (4) 土坑 (第1表、第6・7図)

径がおよそ50cm以上の単独の穴を土坑とした。28基を確認しており、分布は調査区全域に広がる。平面形や規模は様々である。出土した遺物からみて9基が縄文時代、19基が古墳時代後期～末に属すると推定する。後者はA区の東端部からB区に集中している。個々の土坑の詳細は一覧表に譲る。

#### (5) ピット (第1表、第7図)

土坑より小さい穴をピットとした。19基を検出している。A区東側からB区全域にかけて分布する。時期を特定できる遺物を伴ったものはないが、分布域が竪穴建物や掘立柱建物などと重なるため、それら7世紀後半～末の遺構群に付随するものである可能性が高い。個々のピットの詳細は一覧表に譲る。

第1表 本郷高田遺跡・柳田遺跡遺構一覧

遺構No.	平面形	主軸方向	長軸×短軸×深(cm)	床面積(m <sup>2</sup> )	新旧関係		備考
					本址より旧	本址より新	
1	隅丸方形?		322×(160)×15	(4.41)		土19	
2	隅丸方形?		443×(406)×22	(14.81)			
3	隅丸方形	N-88°-W	588×556×32	<29.98>		土26・建1P2・P3・P4	

(残存値) <推定値>

## 掘立柱建物

(残存値) &lt;推定値&gt;

遺構	平面形 柱配り	主軸方向 面積 (㎡)	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	P No.	平面形	柱穴規模 (cm)			備考
							長径	短径	深さ	
高田 建 1	長方形 側柱	N-2° -W (46.6)	(3間) × 2間  (880) × 530	桁行 280 ~ 292  梁行 262	1	不整形	163	142	61	柱痕、礎
					2	方形	150	148	53	柱痕?、礎
					3	方形	132	118	39	柱痕、礎
					4	方形	146	128	48	柱痕、礎
					5	方形	142	138	45	柱痕、礎
					6	方形	(95)	132	32	柱痕
					7	方形	132	132	40	柱痕
					8	方形	124	124	48	柱痕、礎
柳田 建 3	長方形 側柱	N-4° - E (74.0)	(4間) × 3間  (1000) × 740	桁行 224 ~ 288  梁行 240 ~ 256	1	円形	154	148	80	柱痕
					2	隅丸方形	134	122	74	P21 に切られる
					3	隅丸方形	146	146	74	抜き取り痕
					4	円形	(130)	126	90	柱痕
					5	隅丸方形	140	136	108	抜き取り痕
					8	隅丸方形	146	134	104	柱痕
					9	円形	142	130		
					10	隅丸方形	123	120	94	柱痕
					11	楕円形	138	114	97	抜き取り痕、P18 に切られる
					12	楕円形	176	134	96	抜き取り痕
					13	楕円形	156	118	76	柱痕
					14	隅丸方形	133	120	76	抜き取り痕、P20 を切る
					6	楕円形	102	65	43	抜き取り痕
					7	楕円形	<68>	60	35	柱痕
柳田 建 3 関連?										
	15	円形	142	124	14					
	16	円形	61	59	22					
	17	楕円形	140	(98)	39					
	18	円形	76	(66)	34					
	19	楕円形	72	41	23	P20 を切る				
	20	不整形	170	54	8	P14・P19 に切られる				
21	楕円形	91	52	16	P2 を切る					
22	円形	100	80	26	P11 を切る					

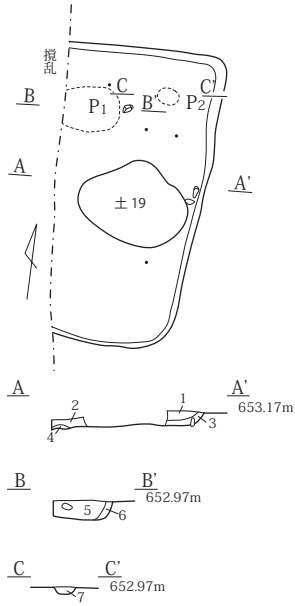
## 土坑

No.	地区	平面形	規模 (cm)			新旧関係		備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新	
1	A	円形?	(48)	78	56			調査区
2	A	楕円形	65	31	18			
3	A	楕円形?	61	(40)	45			調査区
4	A	円形	89	86	58			
5	A	楕円形	67	43	52			
6	A	楕円形	108	78	37			
7	A	楕円形	77	53	17			
8	A	隅丸方形	101	86	38			
9	A	楕円形	74	57	33			
10	A	円形	76	66	39			
11	A	円形	55	51	35			
12	A	円形	50	46	36			
13	A	円形	82	79	67			
14	A	不整形	260	(120)	11			
15	A	円形	82	82	53			
16	A	楕円形	111	96	74			
17	A	楕円形	172	29	15			
18	A	円形?	75	(30)	99			試掘
19	A	楕円形	118	89	9	1 住		
20	A	隅丸方形?	143	(70)	34			調査区
21	B	楕円形	79	63	21		建 1P1	
22	B	円形	71	66	28			
23	B	円形	83	79	55			
24	B	円形	81	78	44			
25	B	楕円形	103	(35)	28			調査区
26	B	楕円形	89	<68>	49		3 住	
27	B	円形?	90	50	27			調査区
28	B	楕円形	64	48	23			

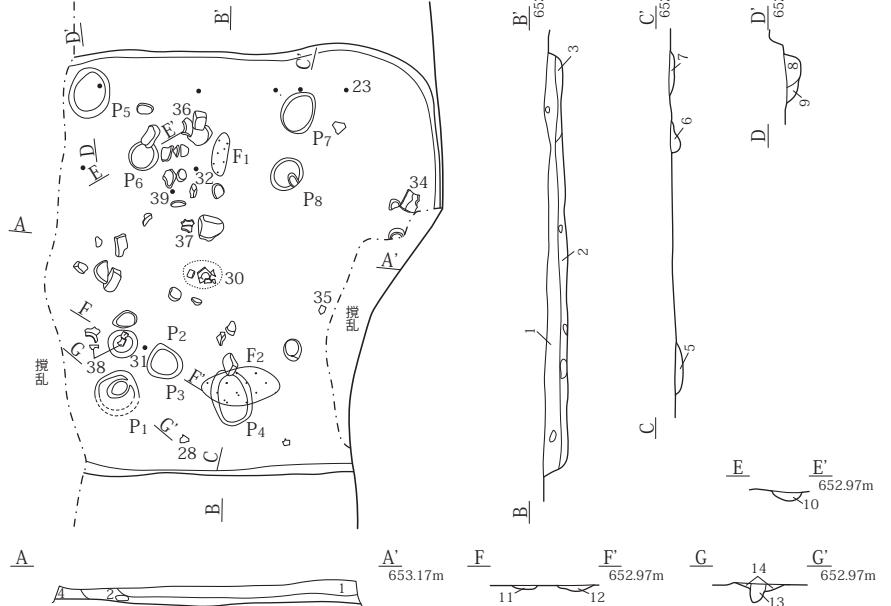
## ピット

No.	地区	平面形	規模 (cm)			新旧関係		備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新	
1	A	楕円形	32	22	16			
2	A	円形	17	15	8			
3	A	円形	31	29	24			
4	A	楕円形	35	30	26			
5	A	円形	28	27	20			
6	A	楕円形	16	11	12			
7	A	楕円形	35	26	10			
8	A	楕円形	35	23	9			
9	A	円形	38	33	12			
10	A	楕円形	35	25	41			
11	B	円形	35	28	15			
12	B	円形	45	33	20			
13	B	円形	41	41	18			
14	B	円形	47	42	42			
15	B	円形	43	35	15			
16	B	楕円形	49	38	24			
17	B	円形	34	32	23			
18	B	円形	39	34	41			
19	B	楕円形	58	43	27	縦 1		

第1号竖穴建物



第2号竖穴建物



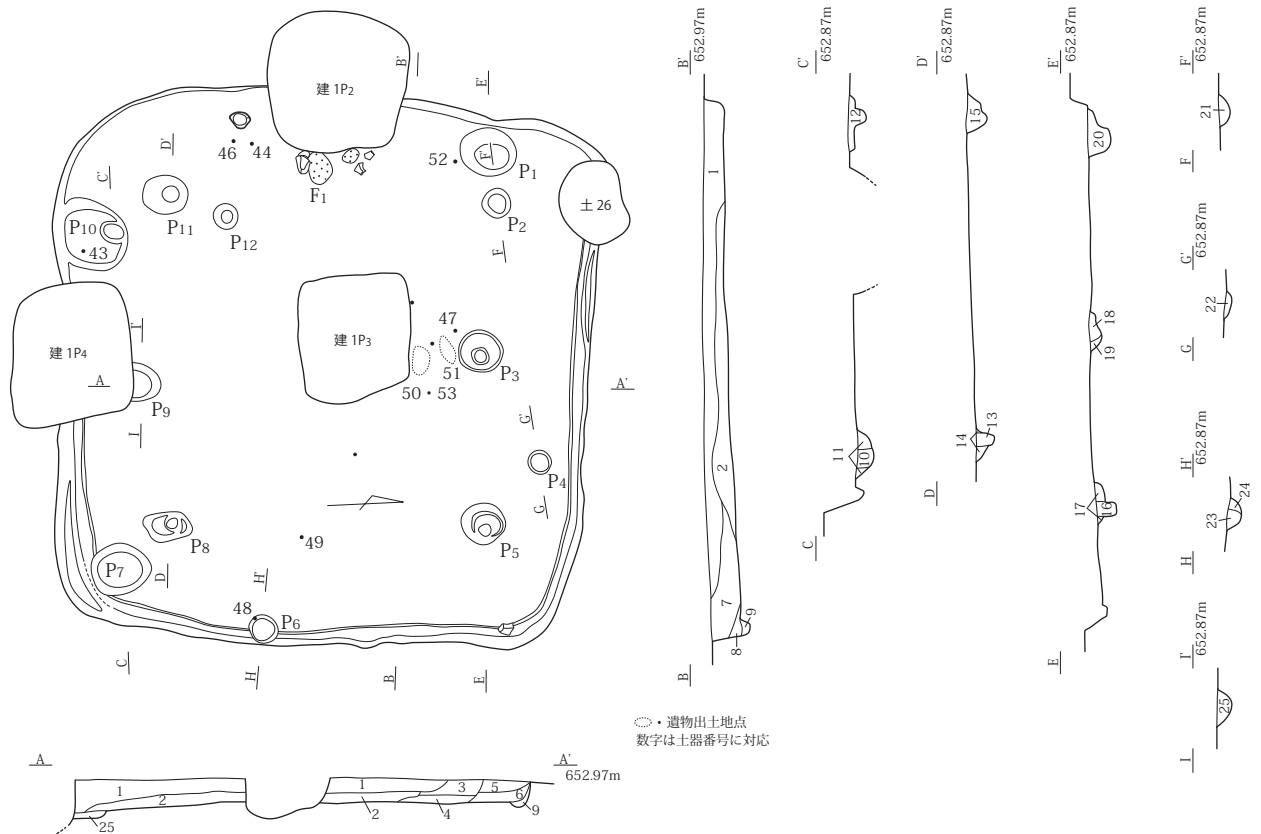
- 1: 黒褐色土
- 2: 黒褐色土 (焼土粒・炭化物 少)
- 3: 黒褐色土 (黄色土粒 少)
- 4: 黒褐色土 (焼土粒 多)
- 5: 黒褐色土
- 6: 暗褐色土
- 7: 黒褐色土 (黄色土粒 少)

- 1: 黒褐色土 (白色砂粒 少)
- 2: 黒褐色土 (黄色土粒 少)
- 3: 黒褐色土 (焼土粒 少)
- 4: 黒褐色土 (焼土粒・黄色土粒・白色砂粒 少)

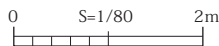
- 5: 暗褐色土 (焼土・炭化物 少)
- 6: 暗褐色土
- 7: 暗褐色土
- 8: 黒褐色土
- 9: 暗褐色土

- 10: 黒褐色土
- 11: 暗褐色土
- 12: 暗褐色土 (炭化物・焼土 少)
- 13: 黒褐色土 (柱痕)
- 14: 暗褐色土

第3号竖穴建物



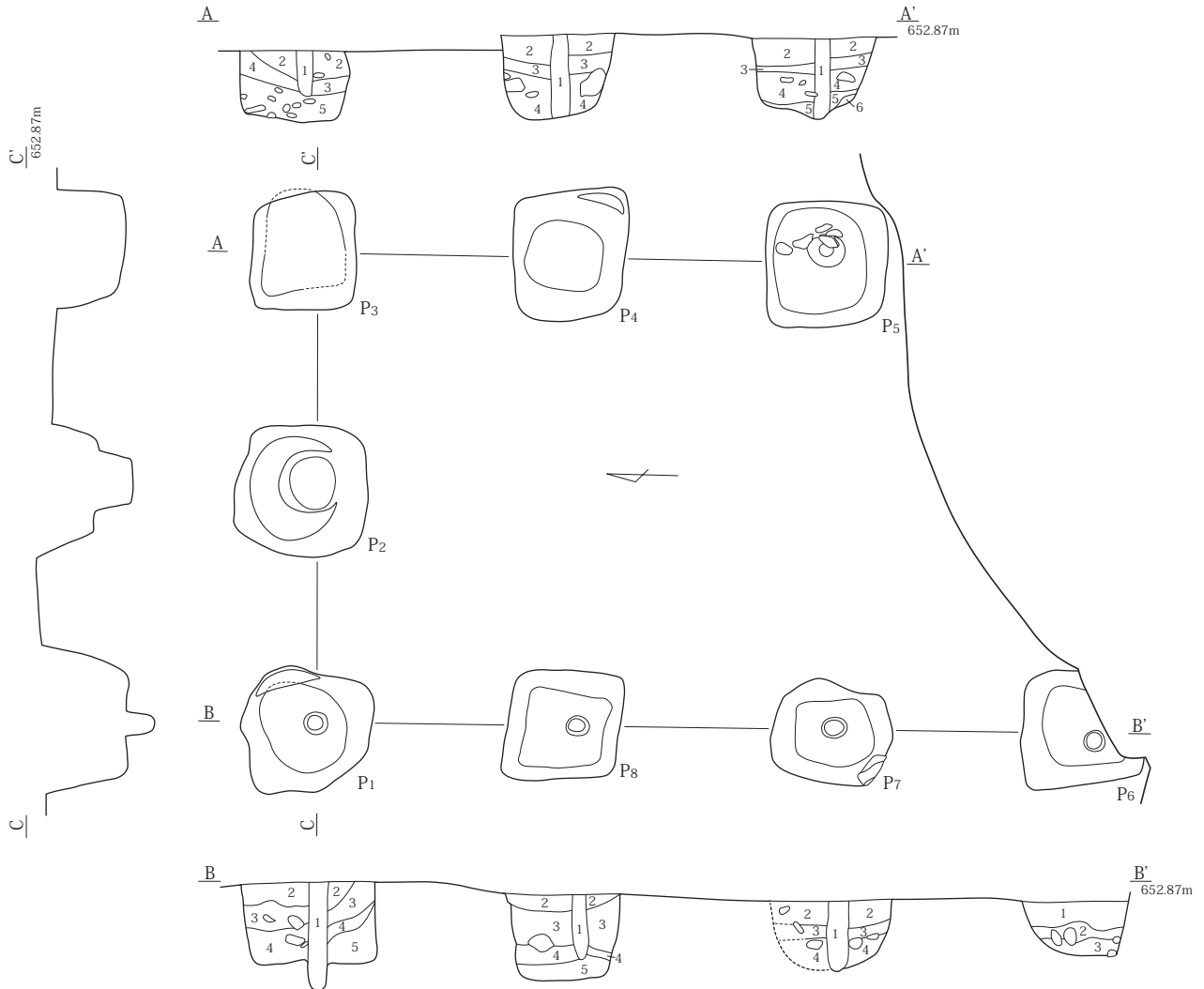
- 1: 黒褐色土 (白色砂粒 多)
- 2: 黒褐色土 (黄色土粒 多)
- 3: 黒褐色土 (黄色・白色砂粒 少)
- 4: 黒褐色土 (黄色土ブロック 少)
- 5: 暗褐色土 (白色・黄色砂粒 少)
- 6: 暗褐色土 (黄色土ブロック 少)
- 7: 黒褐色土
- 8: 暗黄褐色土
- 9: 暗褐色土 (壁際溝)
- 10: 暗褐色土 (柱痕)
- 11: 暗褐色土 (黄色土塊 少)
- 12: 黒褐色土
- 13: 暗褐色土 (柱痕)
- 14: 暗褐色土
- 15: 暗褐色土 (黄色土粒 少)
- 16: 暗褐色土 (柱痕)
- 17: 暗褐色土
- 18: 暗褐色土
- 19: 暗黄褐色土
- 20: 黒褐色土
- 21: 暗褐色土
- 22: 暗褐色土
- 23: 黒褐色土
- 24: 褐色土 (黄色土粒 少)
- 25: 黒褐色土 (黄色土粒 少)



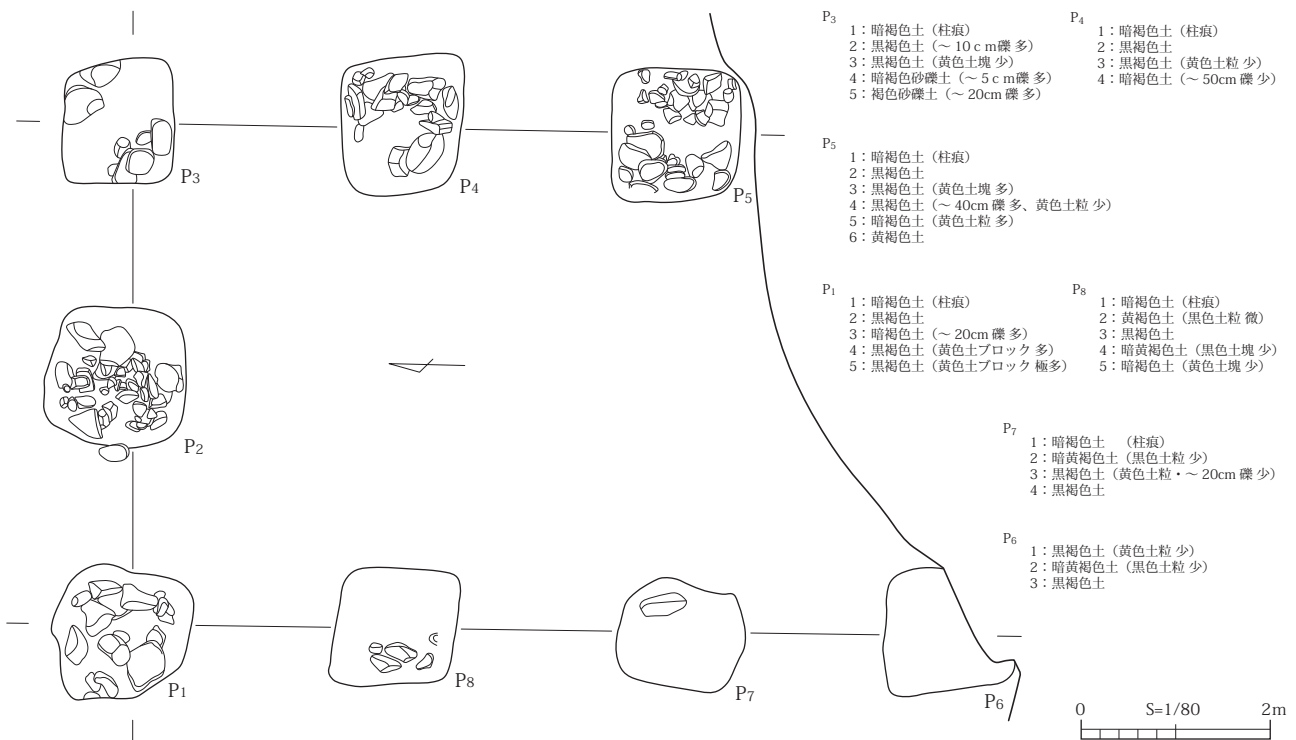
第4図 本郷高田遺跡竖穴建物



# 第1号掘立柱建物

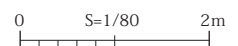
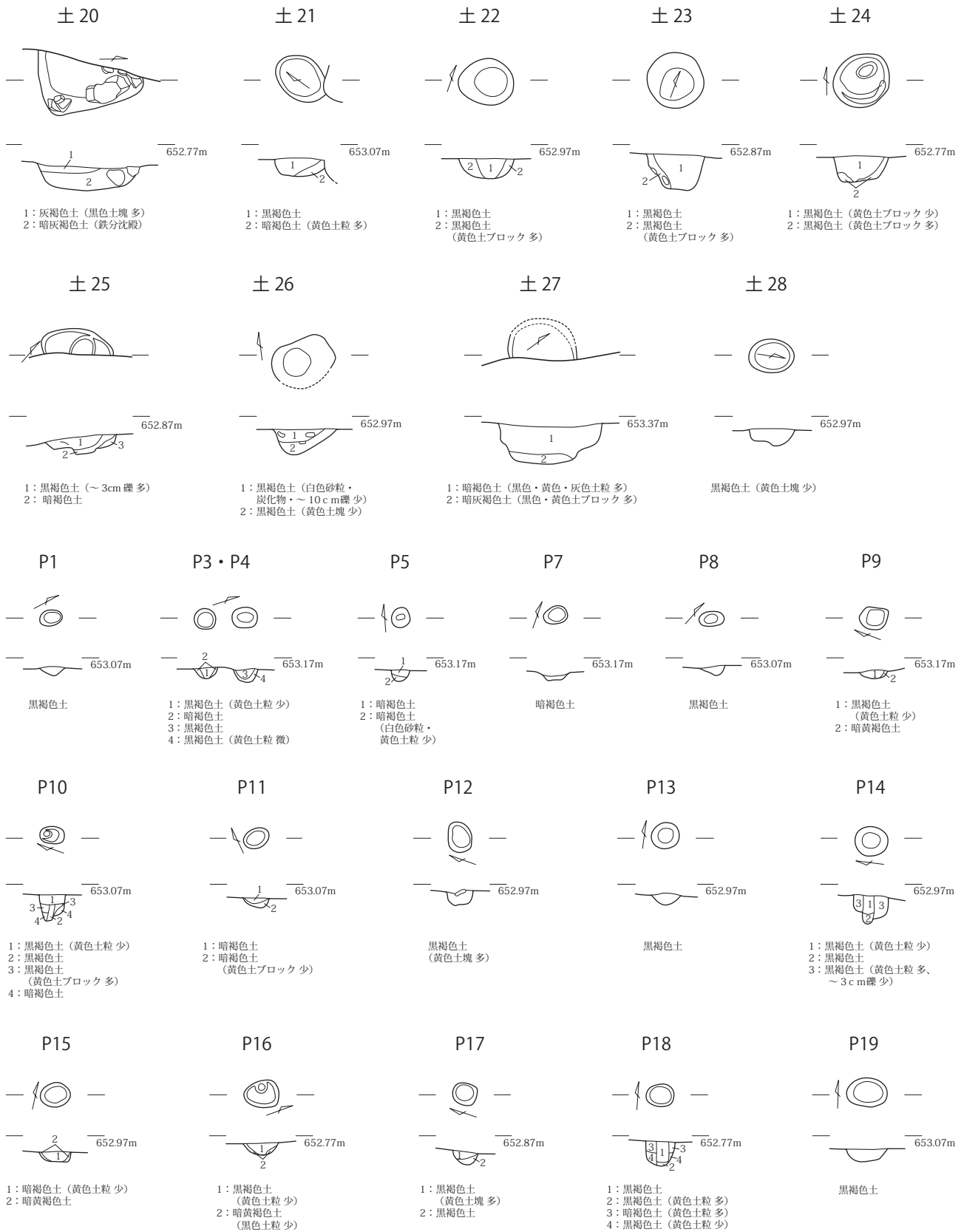


## 建1遺物出土状況



第5図 本郷高田遺跡掘立柱建物





第7図 本郷高田遺跡土坑(2)・ピット



### 3 出土遺物

#### (1) 土器・土製品

遺構内と検出面から 17.37kgの土器・土製品が出土した。103 点を拓影と実測図で示した。種別は縄文土器と土師器・須恵器だが、縄文土器以外はほとんどが古墳時代後～末期の所産と考える。

##### ア 縄文土器（第2表、第8図1～21）

総量は 0.86kgで出土土器全体の 4.95%にすぎない。すべて破片で全形がわかるものはない。21 点の拓影を提示できた。出土地点は 1～12 が 1、13 が 2 住、14 が 3 住、15 が 14、16 は LM、17～19 が A 区検出面、20・21 が B 区検出面である。1 からまとまった出土があり、2・3 住のものは混入品と考える。1～7 は胎土に繊維が多量に含まれる厚手の土器で、外器面に太く粗い単節縄文が施文されている。前期前葉に遡る土器群と考える。8～10 はやや細かい縄文が施文される薄手の破片で、胎土に繊維は含まない。前期前葉に相当するものとみたいが、小片で詳細はわからない。11・17 は前期末から中期初頭、12・13 は中期中葉、14～16・18・19・21 は中期後葉から末、20 は後期に属するものであろう。

##### イ 古墳時代後期の土器・土製品（第2表、第8～10図）

須恵器と土師器があり、82 点を図化提示した。須恵器は、食膳具など小形品のほとんどを占めており、甕・壺類の中形品の比率も高い。ただし、焼成が不良で軟質なものや、胎土に大きな気泡が入り焼き歪んだ個体も少なからず見受けられる。土師器は少量の杯があるほかは厚手で雑な作りの甕類が大半を占めている。土製品は須恵器製の紡錘車（39・88）である。

須恵器の器種には杯蓋・杯・皿・高杯・壺瓶類・甕・器台がある。杯蓋は頂部につまみが付き端部内面にかえりを有す杯蓋 A（63・66 など）、端部が短く内側に屈曲する杯蓋 B（97）、古墳時代に伝統的な器形でつまみがなく杯 H と組み合わされる杯蓋 H（80・86 など）の 3 種がある。杯は体部が直線的に大きく開く杯 A（27・91 など）、高台を有する杯 B（57）、体部の外開度が小さく直に近く立ち上がる杯 G（28・56 など）、外周に蓋受け部を有し、古墳時代に伝統的な器形の杯 H（43・44）の 4 種のほか、底部が丸底気味で外開する体部の中位に稜を持つ杯（29・30・75：杯 X と仮称）がみられる。皿は口径や底径に比して体部の立ち上がりが低く扁平な印象をうける無台の皿 A（99）である。壺瓶類は口縁部のみで全形がわかるものはないが短頸壺（60・93）や横瓶（83・84）となる可能性がある。甕は、中形の甕 C（37・76）、大形の甕 A（36・94・103）になるとみられる口縁部や頸部、胴部破片がある。器台（38）は全形を知りえないが筒形で下方に向かって開く形態で、長く伸びる脚部の上段に円形透かしが 6 単位で巡り、その上のやや膨らみをみせる胴部にも円形透かしが脚部とは互い違いになるように配される。2 本一組の沈線が横位 4 段で巡り、それに消されるように縦方向のハケメが残る。胎土は混入物のない良質なもので灰白色を呈すが、焼成が甘いため軟かく脆い。95 は三角形の透かし孔と細かい波状紋があり、装飾付き器台の脚部であろうか。淡い青灰色を呈す堅緻な焼成である。

土師器の器種には杯・甕・円筒土器がみられる。杯は薄手で精製された胎土を持ち、体部がわずかに内湾しながら直立する形態（32・33・45・82）と、やや厚手で内面に黒色処理が行われるもの（70）がある。前者は摩滅のため器面調整の詳細な観察ができない。甕は全形を知り得るものはない。いずれも器肉が厚く成形や調整が雑で、外形は頸部がややくびれるもの（46、おそらく 34・47・49 も同じ）と、頸部のくびれをまったく作らず口縁部から胴部に至るもの（48・74）の 2 種がみられる。後者には甕が含まれているかもしれない。底部は厚い平底や緩い湾曲の丸底を呈している。円筒土器（35・85）はいずれも全形を知りえない。35 には外面に縦方向の長い剥離痕があり、鱗状の突起が付されていたのであろうか。85 は外面にわずかにタタキハケメがうかがえるので瓦の可能性もある。

ウ 出土地点別の内容

(ア) 第1号竪穴建物出土品 (第8図22)

出土量は0.4kgときわめて少なく、1点を図示できたのみ(22)。須恵器の杯Gあるいは杯Aの底部と推定する。7世紀後半のものであろう。

(イ) 第2号竪穴建物出土品 (第8・9図23～39)

総重量で4.58kgが出土しているが、すべて大小の破片で完形品はない。17点を図示できた。内訳は須恵器が杯蓋A4点(23～26)、杯A1点(27)、杯G1点(28)、杯X2点(29・30)、高杯1点(31)、甕A2点(36・37)、器台1点(38)、土師器は杯2点(32・33)と甕1点(34)、円筒土器1点(35)、土製品は須恵器質の紡錘車1点(39)である。総体として7世紀後半のまとまった資料と考える。

(ウ) 第3号竪穴建物出土品 (第9図40～54)

総重量3.27kgが出土した。須恵器杯(43)の1点がほぼ完形のほかはすべて大小の破片である。15点を図示できた。内訳は須恵器が杯蓋A3点(40～42)、杯H2点(43・44)、土師器は杯1点(45)と甕9点(46～54)である。総体として7世紀後半のまとまった資料と考える。

(エ) 第1号掘立柱建物出土品 (第9・10図55～74)

本址を構成する8基の柱掘方(P1～P8)から合計で2.71kgが出土した。すべて破片であるが20点を図示できた。須恵器は杯蓋A(55・63・66・67・69・71)、杯A(68)、杯B(57)、杯G(56)、高杯(59)、壺(60)があり、その他では58が杯か高杯、61は壺類になると推定するが特定できない。土師器は杯(70)、高杯(64)、甕(62・65・72～74)である。70の杯は成形・調整にロクロ(回転)を用いた形跡がなく、内面には黒色処理が行われている。総体として7世紀後半の資料と考える。

(オ) 土坑・ピット出土品 (第10図75～88)

土坑数基と単独ピットから土器が出土しているがすべて小破片である。量的にはA区の土坑・ピット出土の合計が0.975kg、B区が1.032kgで、このうち土坑から出土した14点を図化できた。須恵器の杯蓋A(77～79・81)、杯蓋H(80・86)、杯(75・87)、甕(76)、壺瓶類(83・84)、土師器の杯(82)、円筒土器(85)がある。土製品は須恵器質の紡錘車(88)で、上部を欠損するが断面が低い台形を呈するものであろう。いずれの土器も2・3住出土品と類似する時期のものと考えられる。

(カ) 検出面等出土品 (第10図89～103)

遺構検出面やその上部の包含層、ロームマウンド(風倒木痕)からも少量の土器が出土している。A区で1.16kg、B区で2.34kgを量り、うち15点を図化できた。須恵器の杯蓋A(89・96)、杯蓋B(97)、杯蓋H(90)、杯A(91・92・98)、皿(99)、壺(93)、甕(94・103)、器台?(95)、土師器の高杯(100・101)、甕(102)がある。出土状況などから一体性がある土器群とは認められないが、調査地全体の時期や性格を考える参考になろう。

No.	地点	種別	器種器形	成形・調整・紋様など	その他・備考	注記	No.	地点	種別	器種器形	成形・調整・紋様など	その他・備考	注記
1	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	056	13	2住	縄	深鉢	隆帯と沈線による方形区画	中期中葉	044
2	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	052	14	3住	縄	深鉢	唐草紋土器	中期後葉～末	126
3	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	056	15	土14	縄	深鉢	列点刺突と隆帯(唐草紋土器)	中期後葉	068
4	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	052	16	LM	縄	深鉢	沈線区画に縄紋	中期中葉～後葉	089
5	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	052	17	A区検	縄	深鉢	細い平行沈線	前期末～中期初頭	100
6	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期	051	18	A区検	縄	深鉢	唐草紋土器	中期後葉	100
7	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期か	052	19	A区検	縄	深鉢	唐草紋土器	中期後葉	097
8	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期か	057	20	B区検	縄	深鉢	横沈線	後期?	176
9	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期か	056	21	B区検	縄	深鉢	唐草紋土器	中期後葉～末	180
10	竪1	縄	深鉢	縄文、繊維含む、厚手	前期か	056							
11	竪1	縄	深鉢	交互刺突	中期初頭～前葉	055							
12	竪1	縄	深鉢	焼町式	中期中葉	053・055							

第2表 土器一覧(縄文)

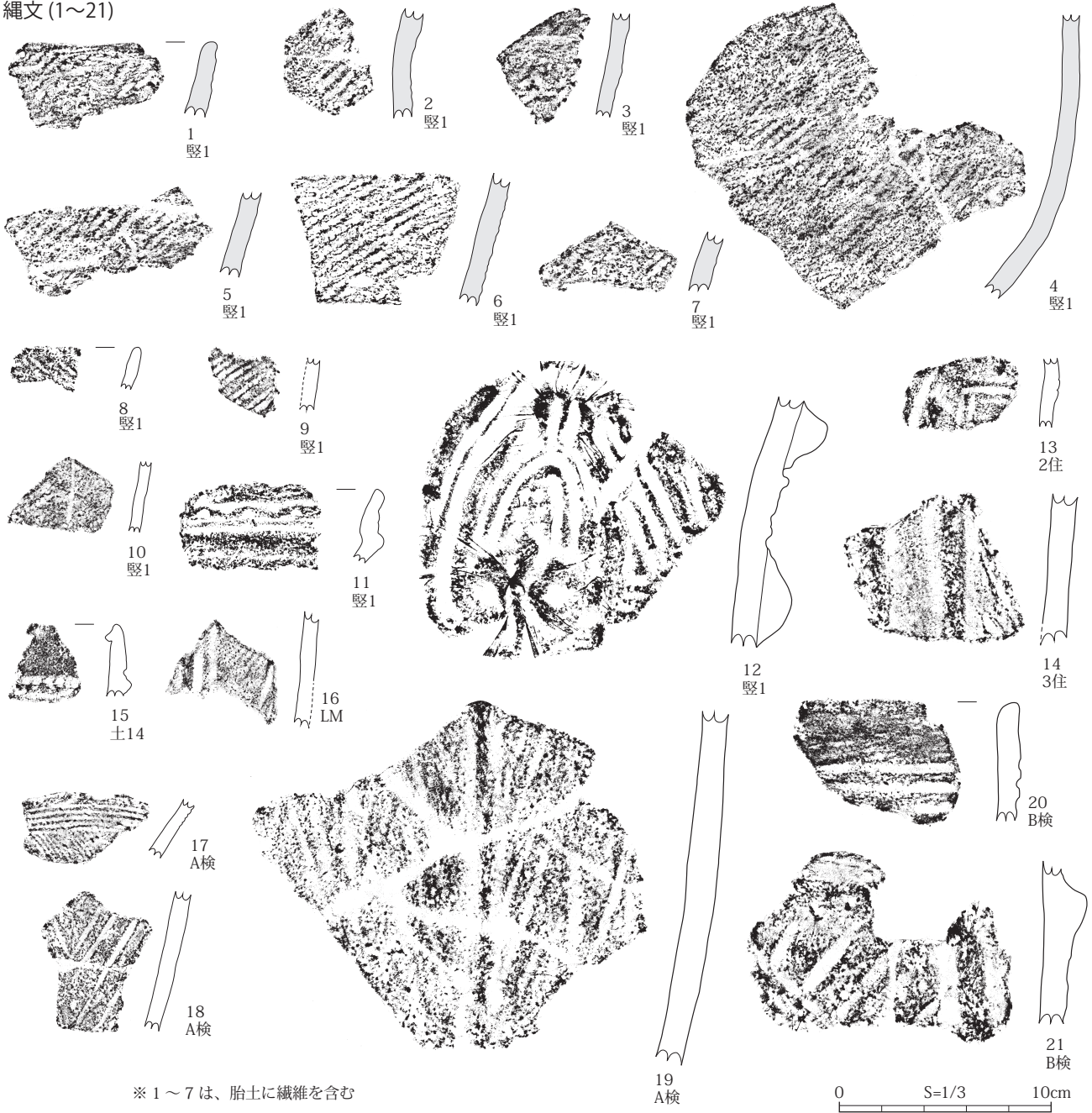
No.	地点	種別	器種器形	寸法 (cm)			残存		成形・調整・紋様など	その他・備考	注記
				口径	底径	器高	口縁	底部			
22	1住	須	杯	不	不	不	欠	3/4	口、底面回ケ	胎土灰白焼成非常に良好	004
23	2住	須	杯蓋 A	9.8	—	不	1/4	—	口、回ケ、自然釉		016
24	2住	須	杯蓋 A	不	—	不	欠	—	口、回ケ		043
25	2住	須	杯蓋 A	8.8	—	不	1/10	—	口		040
26	2住	須	杯蓋 A	不	—	不	不	—	口	破片実測	043
27	2住	須	杯 A	12.7	不	不	欠	1/16	口、底面回ケ		044
28	2住	須	杯 G	不	—	不	欠	不	口、底面回ケ後ナデ		034
29	2住	須	杯	12.0	不	不	1/12	欠	口	口縁直下に沈線状の窪み	039
30	2住	須	杯	12.2	—	5.3	2/3	完	口、底面回ヘ		026
31	2住	須	高杯	10.1	不	不	1/5	欠	口、回ケ	焼成不良軟質	030
32	2住	土	杯	14.8	不	不	1/3	欠	(摩滅)	橙灰色で良質な胎土	019
33	2住	土	杯	15.4	不	不	1/4	欠	(摩滅)	橙灰色で良質な胎土	043
34	2住	土	甕	不	不	不	欠	欠	外：工、内：輪、ナデ		027
35	2住	土	円筒	不	不	不	欠	欠	外：ナデ、内：輪、ナデ		029・044
36	2住	須	甕	28.2	不	不	1/5	欠	口、タタキ(外)		018
37	2住	須	甕	不	不	不	欠	欠	外：タタキ、内：摩滅	焼成不良軟質	023・043
38	2住	須	器台	不	25.0	不	欠	1/30	口、ハケメ、沈線	胎土は良質だが焼成不良軟質	031・032
39	2住	須	紡錘車	5.0	—	2.8	1/2	1/2	ナデ		020
40	3住	須	杯蓋 A	9.8	—	不	1/4	—	口、回ケ		128・141
41	3住	須	杯蓋 A	10.4	—	不	1/8	—	口、回ケ		126
42	3住	須	杯蓋 A	12.0	—	不	1/16	—	口		130
43	3住	須	杯 H	12.7	4.6	4.1	完	完	口、回ケ		119
44	3住	須	杯 H	12.8	7.4	不	1/7	欠	口、回ケ		117・126
45	3住	土	杯	14.4	不	不	1/16	欠	ヨ、ナデ		130
46	3住	土	甕	16.6	不	不	完	欠	ヨ、工(外)、輪・ナデ(内)		118
47	3住	土	甕	不	7.0	不	欠	完	工、木葉(底)、輪・工(内)		109・110
48	3住	土	甕	17	9.0	13.2	1/16	1/16	工、太ミガキ(内)		121・125
49	3住	土	甕	不	6.0	不	欠	完	外：ナデ、ケ、内：工		108
50	3住	土	甕	15.4	不	不	1/6	欠	ヨ、工		112
51	3住	土	甕	17.2	不	不	1/6	欠	ヨ、工		111
52	3住	土	甕	不	9.2	不	欠	1/7	工、木葉(底)		115
53	3住	土	甕	不	7.5	不	欠	1/16	ナデ、ケ		112
54	3住	土	甕?	不	3.6	不	欠	完	ナデ、ケ		128
55	建1P1	須	杯蓋 A	10.8	—	不	1/12	—	口		136
56	建1P1	須	杯 G	不	6.3	不	欠	1/4	口、回ケ		136
57	建1P1	須	杯 B	不	5.6	不	欠	1/4	口、回ケ		137
58	建1P1	須	高杯	11.2	不	不	1/16	欠	口	土26(168)と接合、38と同個体?	136・168
59	建1P1	須	高杯	不	不	不	欠	欠	口	土20(157)と接合、37と同個体?	136・157
60	建1P1	須	壺	12.2	不	不	1/4	欠	口		137・139
61	建1P1	須	壺?	6.8	不	不	1/4	欠	口		136
62	建1P1	土	甕	不	9.2	不	欠	1/8	ナデ		136
63	建1P2	須	杯蓋 A	9.6	—	1.8	1/4	—	口、回ケ		140
64	建1P2	土	高杯	不	10.4	不	欠	1/5	工		140
65	建1P2	土	甕	不	6.2	不	欠	1/3	工、木葉(底)		140
66	建1P3	須	杯蓋 A	10.2	—	不	1/2	—	口、回ケ	3住(126)と接合	141・142・126
67	建1P3	須	杯蓋 A	10.0	—	不	1/6	—	口、回ケ		142
68	建1P3	須	杯 A	不	4.6	不	欠	1/4	口	焼成不良軟質	141
69	建1P4	須	杯蓋 A	10.8	—	不	1/8	—	口、回ケ		143
70	建1P4	土	杯	9.6	不	不	1/10	欠	外：ナデ、内：ミガキ、黒		144
71	建1P5	須	杯蓋 A	9.8	—	不	1/8	欠	口、回ケ		147
72	建1P5	土	甕	不	9.0	不	欠	1/5	外：工、内：ナデ		147
73	建1P6	土	甕	不	5.6	不	欠	3/5	工		148
74	建1P8	土	甕	17.6	不	不	1/8	欠	工		151
75	土16	須	杯	10.7	4.7	5.1	1/8	1/2	口、底面回ヘ	土15(070)と接合、焼成不良歪む	071・070
76	土16	須	甕	不	不	不	不	不	口	破片実測	071
77	土18	須	杯蓋 A	10.1	—	不	1/3	欠	口、回ケ	歪む	072
78	土18	須	杯蓋 A	不	—	不	不	—	口、回ケ	破片実測	072
79	土18	須	杯蓋 A	不	—	不	不	—	口、回ケ	破片実測、気泡	072
80	土20	須	杯蓋 H	8.9	—	不	1/12	—	口、回ケ		157
81	土24	須	杯蓋 A	不	—	不	不	—	口	破片実測	163
82	土24	土	杯	12.0	不	不	1/12	欠	(摩滅)		163
83	土25	須	壺瓶?	13.0	不	不	1/8	欠	口	歪む	165
84	土25	須	壺瓶?	11.2	不	不	1/10	欠	口	歪む	164
85	土25	土	円筒?	不	不	不	欠	欠	外：タタキ、内：ナデ	瓦?	166
86	土26	須	杯蓋 H	9.3	—	3.5	1/16	—	口、回ケ		168
87	土26	須	杯	不	4.4	不	欠	2/3	口、回ケ、底面回ヘ		168
88	土28	須	紡錘車	6.2	—	不	3/5	—	ナデ		169
89	A区検	須	杯蓋 A	不	—	不	欠	—	口、回ケ		095
90	A区検	須	杯蓋 H	不	—	不	欠	—	口、回ケ		098
91	A区検	須	杯 A	11.0	不	不	1/6	欠	口		100
92	A区検	須	杯 A	不	5.6	不	欠	1/4	口、底面回ヘ		100
93	A区検	須	壺?	15.6	不	不	1/16	欠	口、沈線(外)		095
94	A区検	須	甕	20.8	不	不	1/12	欠	口	焼成不良軟質	タカダ
95	A区検	須	器台?	13.2	14.6	6.3	1/3	1/12	口、波状文、沈線	3住(127)・建1P1(136)と接合	102・127・136
96	B区検	須	杯蓋 A	10.0	—	不	1/3	—	口、回ケ		175・180
97	B区検	須	杯蓋 B	10.4	—	不	1/8	—	口		179
98	B区検	須	杯 A	不	—	不	欠	完	(摩滅)	焼成不良軟質	180
99	B区検	須	皿	20.0	15.1	2.8	1/12	1/12	口、手持ちケ	焼成不良	180
100	B区検	土	高杯	18.6	不	不	1/16	欠	外：ヨ、内：ミガキ、黒		177
101	B区検	土	高杯	不	不	不	欠	欠	外：ナデ、内：ミガキ、黒		179
102	B区検	土	甕	不	7.2	不	欠	1/8	外：ナデ、ケズリ状ナデ、内：工		180
103	B区検	須	甕	不	不	不	不	不	口	破片実測	180

寸法・残存度略記：計測不能→不、欠損→欠、成形・調整・紋様略記：口ノナデ→口、ヘラケズリ→ケ、回転ヘラケズリ→回ケ、回転ヘラ切り→回ヘ、ヨコナデ→ヨ、工具ナデ→工、木葉圧痕→木葉、輪痕→輪、黒色処理→黒

## 第2表 土器一覧(古墳)



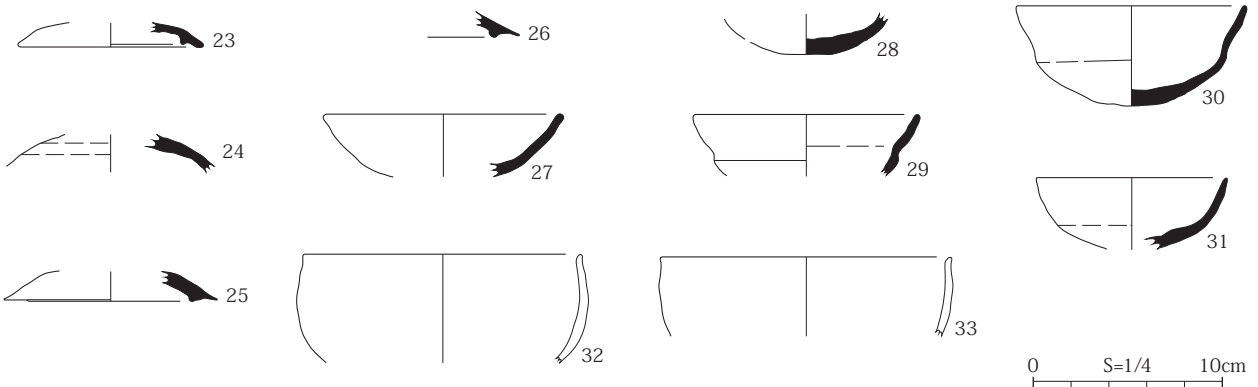
縄文 (1~21)



1住 (22)



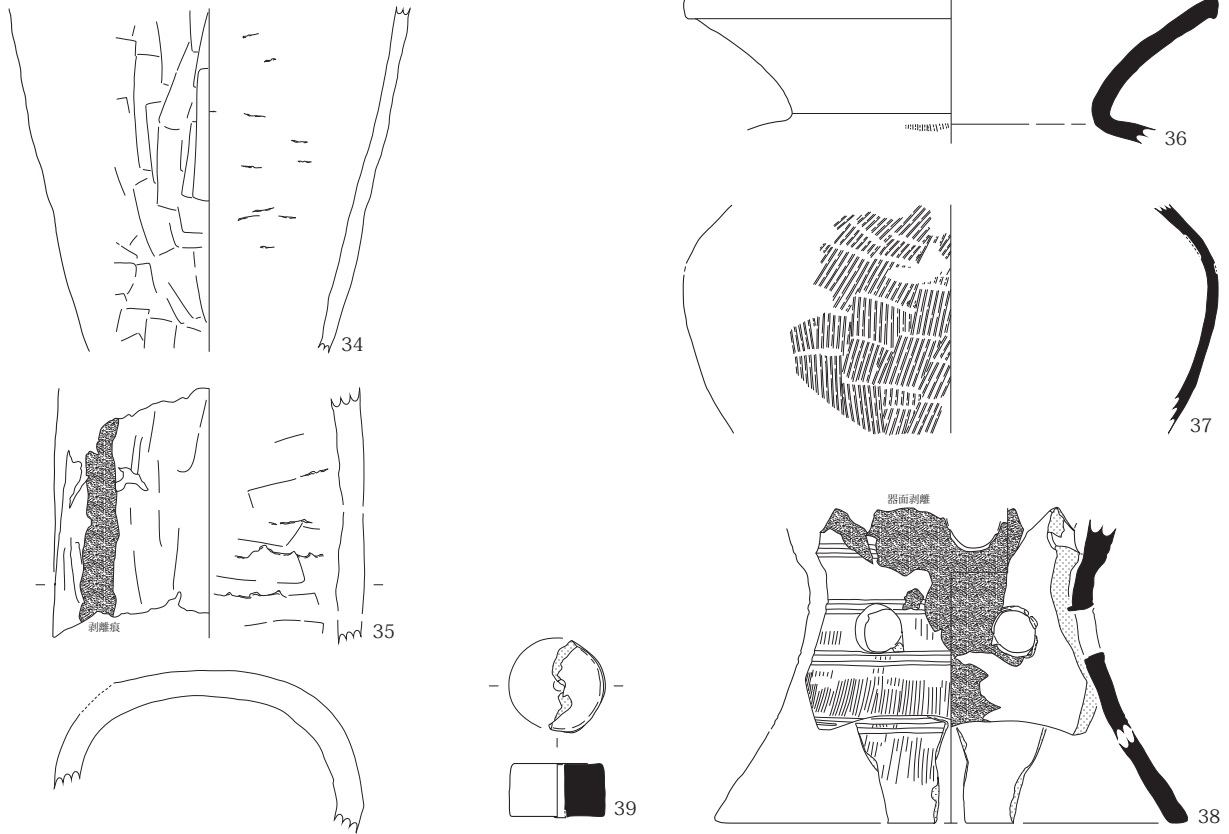
2住① (23~33)



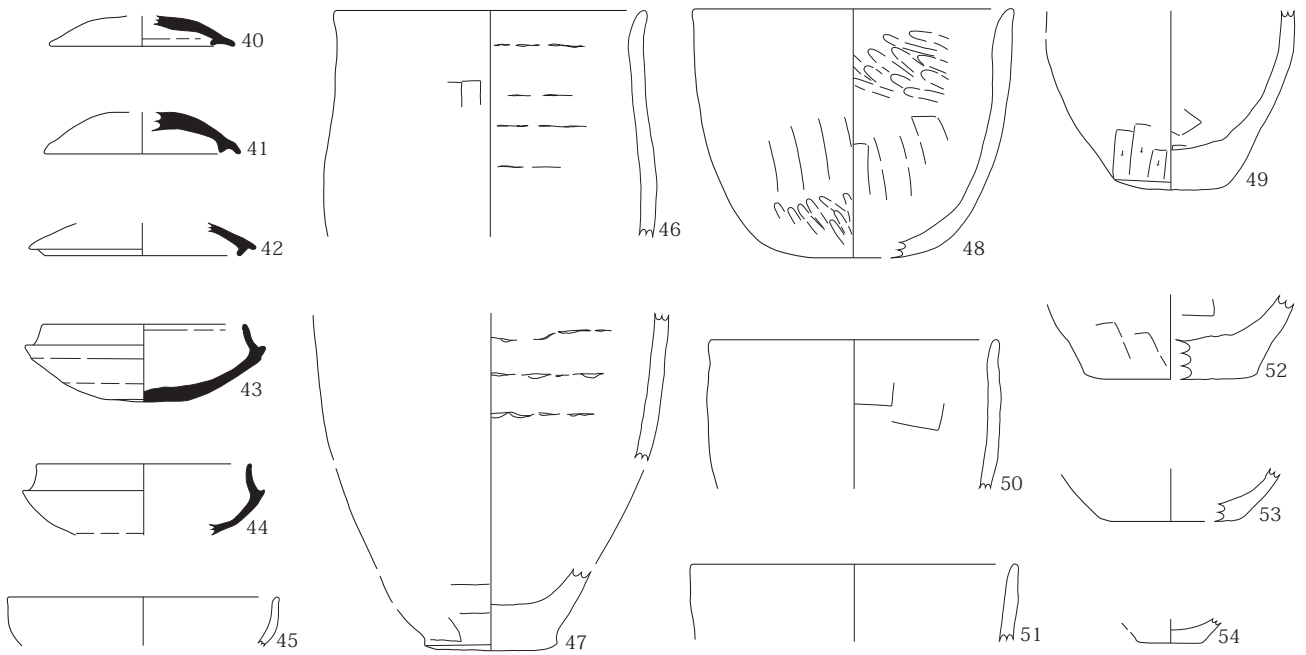
第8図 本郷高田遺跡縄文土器拓影・土器実測図 (1)



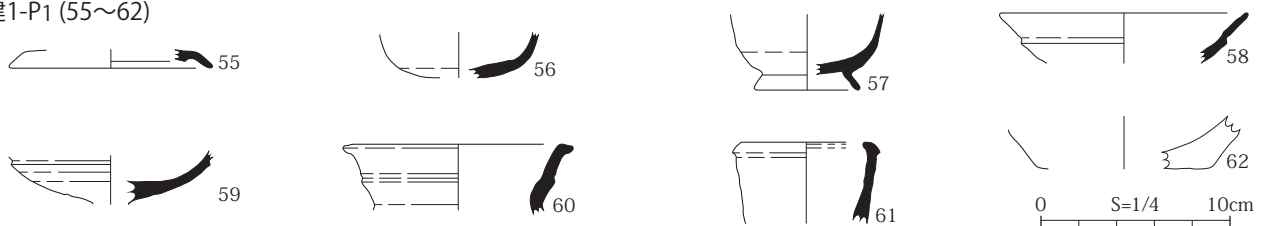
2住② (34~39)



3住 (40~54)

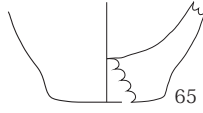


建1-P1 (55~62)



第9図 本郷高田遺跡土器実測図(2)

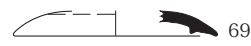
建1-P2 (63~65)



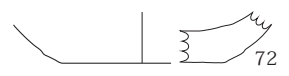
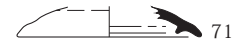
建1-P3 (66~68)



建1-P4 (69・70)



建1-P5 (71・72)



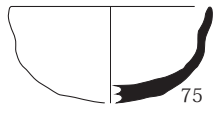
建1-P6 (73)



建1-P8 (74)



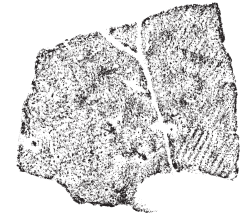
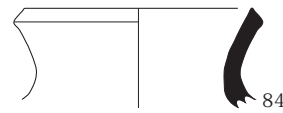
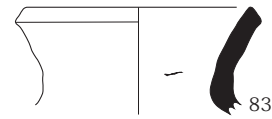
土16 (75・76)



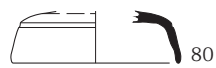
土18 (77~79)



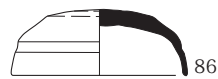
土25 (83~85)



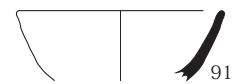
土20 (80)



土26 (86・87)



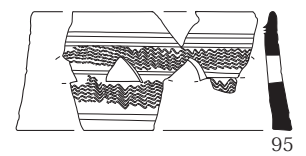
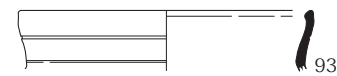
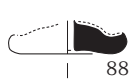
A区検出面 (89~95)



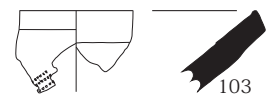
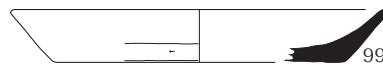
土24 (81・82)



土28 (88)



B区検出面 (96~103)



0 S=1/4 10cm

第10図 本郷高田遺跡土器実測図(3)

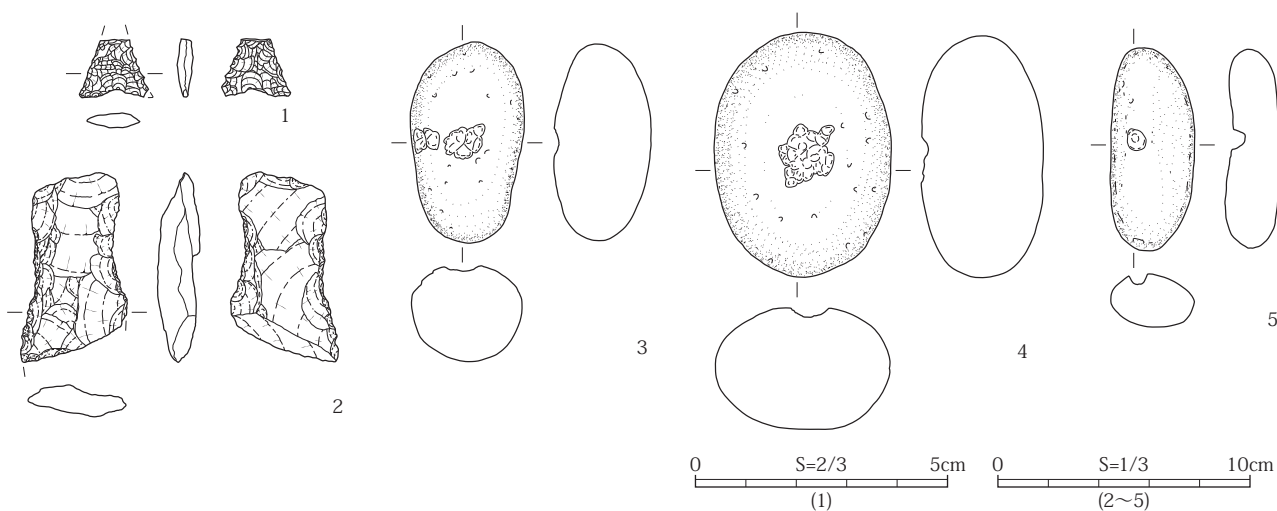
(2) 石器 (第3表、第11図)

合計23点の石器が出土した。このうち遺存状態の良い定型石器を中心に5点を図示し、その概要を述べる。それ以外のものは第3表を参照されたい。石器の帰属する時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。

1は、黒曜石製で、無茎凹基鏃である。基部の挟りは浅く、側辺はやや内湾する。2は、砂岩製の打製石斧である。刃部が欠損しているが、刃部に向かって幅が広がっているのが認められるため、平面形は撥形を呈していると考えられる。3～5の凹石はいずれも豎1からの出土で、砂岩製である。3・4のくぼみの深さは1.7mmと3.2mmと浅く、敲打によって不整形な平面形を呈している。一方、5のくぼみは直径7.6mm、深さ5.6mmの錐で穿ったような円筒状の孔が観察された。

(3) 金属製品

7点の出土がある。遺構からは2住北西部埋土、土17埋土、建1P6上部から出土した。2住は長さ33.8mm、幅11.8mm、厚さ5.3mm、重量2.4gの鉄片、土17は長さ24.3mm、幅7.6mm、厚さ7.43mm、重量2.2gの鉄片でいずれも器種不明、建1P6は鉄の丸釘で近現代の混入品と思われる。検出面からは丸釘3点と銅銭破片が出土した。丸釘は近現代のものである。銅銭は1/3ほどの残欠で「元」と「寶」の文字がうかがえる。



第11図 本郷高田遺跡石器実測図

ID	実測	器種	区	遺構	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1		磨石	A	1住	安山岩	(7.28)	(5.45)	(4.38)	(190.5)	3/4欠	断面形扁平な楕円形、磨面表裏面、No.2と同一か
2		磨石	A	1住	安山岩	(4.30)	(5.58)	(4.37)	(147.8)	3/4欠	断面形扁平な楕円形、磨面表裏面、No.1と同一か
3		剥片	A	2住	黒曜石	1.44	0.56	0.21	0.2	完形	
4		剥片	A	豎1	黒曜石	2.53	1.36	0.23	1.1	完形	
5		磨石	A	豎1	砂岩	5.30	4.50	4.13	129.0	完形	平面形円形、断面形円形、磨面表面
6	3	凹石	A	豎1	砂岩	7.82	4.37	3.82	167.0	完形	平面形楕円形、断面形円形、凹部(表面1、不整形、φ0.84cm、深さ0.17cm)
7		磨石	A	豎1	砂岩	11.75	5.95	4.78	438.9	完形	平面形楕円形、断面形楕円形、磨面表面
8		磨石	A	豎1	砂岩	11.83	6.23	54.00	620.0	完形	平面形楕円形、断面形方形、磨面表裏面、下側に敲打痕か
9		凹石	A	豎1	安山岩	12.85	9.07	4.87	739.4	完形	平面形歪な楕円形、断面形楕円形、凹部(表面3、不整形、φ1.69cm、1.26cm、1.04cm、深さ0.72cm、0.47cm、0.4cm)、磨面表裏面
10	4	凹石	A	豎1	砂岩	9.53	6.83	4.81	404.1	完形	平面形楕円形、断面形楕円形、凹部(表面1、不整形、φ2.05cm、深さ0.32cm)
11	5	凹石	A	豎1	砂岩	7.92	3.37	2.16	77.5	完形	平面形長楕円形、断面形楕円形、凹部(φ0.76cm、深さ0.56cm)
12		磨石	A	豎1	安山岩	11.48	5.38	3.27	265.4	完形	平面形不定形、断面形楕円形、磨面表裏面
13		剥片	A	土14	粘板岩	4.30	2.61	5.10	5.8	完形	2個体に割れ
14		石錐	A	検出面	黒曜石	3.52	3.02	1.04	9.0	完形	平面形中央に張り出し有り、錐部(断面形三角形、先端形稜線を有する)、加工部位(両面加工、錐部とわずかに基部)
15		剥片	A	検出面	チャート	4.51	2.11	6.80	4.2	完形	
16		剥片	A	検出面	チャート	2.07	1.83	0.96	3.2	完形	
17		石鏃	A	検出面	黒曜石	3.12	2.17	1.06	6.0	完形	無茎凸基(尖基)、側辺(片側外曲、片側直線)、先端普通
18	1	石鏃	A	LM	黒曜石	(1.09)	(1.37)	(0.20)	(0.3)	1/4欠(尖頭部と片逆刺欠)	無茎凹基(挟り浅い、逆刺鈍い)、側辺内曲
19		二次加工ある剥片	B	建1P3	チャート	3.60	2.65	0.74	7.1	完形	横長剥片、両面加工、加工部位1側縁
20		石鏃	B	建1P6	チャート	2.66	2.02	0.67	2.6	完形	無茎凸基(尖基)、側辺ほぼ直線、先端鈍い
21		剥片	B	土23	黒曜石	3.87	1.92	0.57	4.6	完形	
22		剥片	B	土26	黒曜石	2.47	1.34	0.63	1.1	完形	
23	2	打製石斧	B	検出面	砂岩	(6.85)	(3.90)	(1.42)	(47.2)	1/4欠(刃部欠)	側縁形撥型

第3表 本郷高田遺跡石器一覧

## IV 柳田遺跡の調査

### 1 調査の概要

#### (1) 調査地、調査と整理の方法

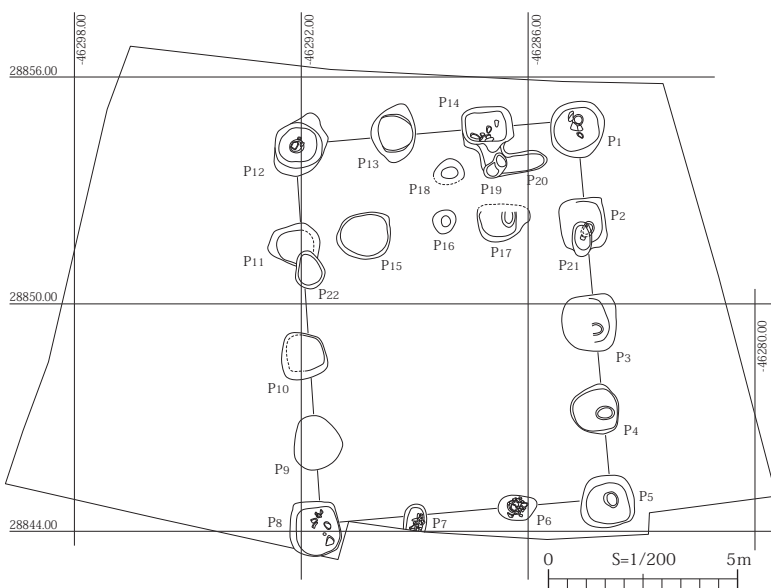
建設範囲全域を対象としたが、排土置き場や安全勾配を確保した結果、調査面積は 209.854㎡である（第 12 図）。調査はパワーショベルで表土と遺構検出面付近までを削り込み、次いで人力で遺構を検出した。本調査に先立つ試掘で掘立柱建物の存在が予測されていたため、まず柱穴掘方すべての配置と平面形の把握に努めた。調査地内での掘立柱建物全景の確認後、各掘方の段掘りと半割、土層の観察と実測、写真撮影を行った。その後、掘方の全掘と測量、全景の写真撮影をした。遺物は柱穴ごとの取り上げを予定したが、検出面を含めて皆無に近い。平面図と土層図は 1/20 縮尺で作成、写真はカラーとモノクロの 35mm ネガフィルムで撮影した。整理作業は市立考古博物館内で実施し、その内容や工程は前章と同じである。

#### (2) 標準土層

一帯は耕作土（Ⅰ層）とその直下の水田の影響を受けたと思われる黄灰色弱粘質土（Ⅱ層）が約 50cm 厚で広がる。その下部は粘性があって固く締まる黒褐シルト質土（Ⅲ層）と砂粒が多く混じる同様の黒褐シルト質土（Ⅳ層）が 30～40cm 厚で続き、場所によってはこのⅢ・Ⅳ層に多くの砂礫が混じる。さらにその下部はやや礫が混じる暗褐シルト質土（Ⅴ層）、黄褐シルト質土（Ⅵ層）が 30～40cm 厚で続き、遺構はⅤ層を削り込む中で検出した。それ以下は 50～300mm 径の礫による砂礫層である。

### 2 発見された遺構と遺物（第 1 表、第 13・14 図）

掘立柱建物 1 棟を検出した（第 3 号※）。南端部が調査区域外にかかるので全容は不明だが、梁行 3 間、桁行 4 間以上の側柱式建物で、調査部分では 7.4 × 10.0 m を測る。柱間は梁方向が 240～256cm、桁方向が 224～288cm である。主軸は桁行方向で N4 E を指している。主要な掘方は 12 基（P1～P5・P8～P14）が確認でき、平面形は隅丸方形を基調とするが、かなり不整で円形に近いものもある。規模は最大長 1.2～1.5 m、深さ 0.7～1.1 m を測る。埋土は黒褐色土に大きな黄褐色土ブロックが斑状や層状に入るものが基本で、それを縦に切る柱痕が明瞭なもの（P1・P4・P13）、抜き取り痕らしき層がみられるもの（P3・

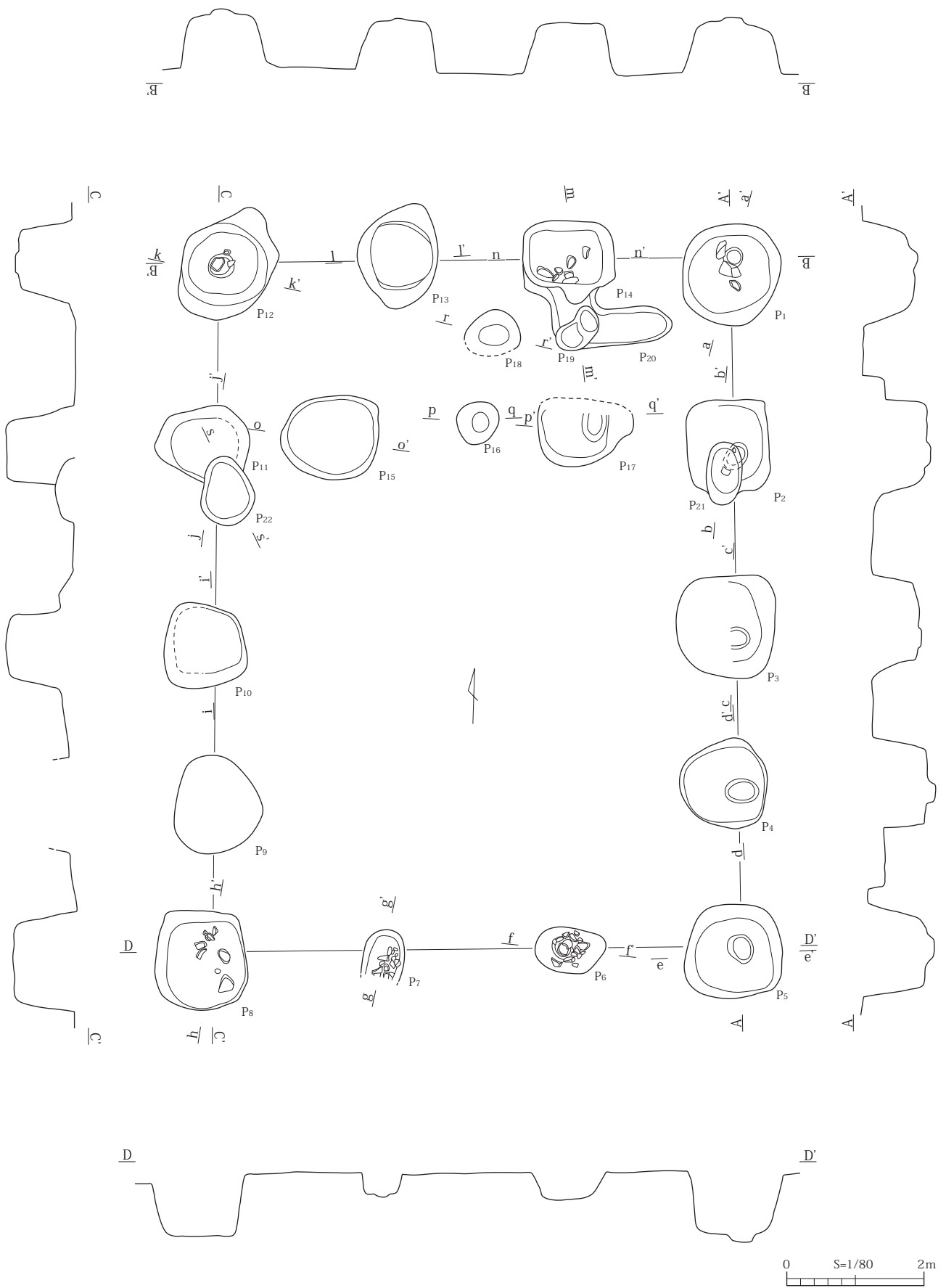


第 12 図 柳田遺跡全体図

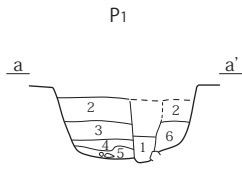


柳田遺跡 建 3 北側柱穴列（西から）

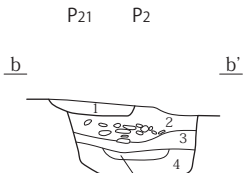




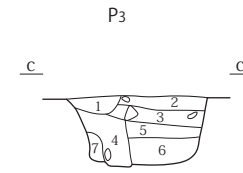
第 13 图 柳田遺跡掘立柱建物平面図



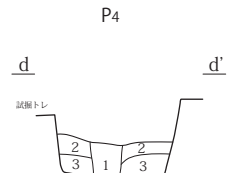
- 1: 暗褐色土 (～1cm 黄色土ブロック少) 柱痕
- 2: 暗褐色土 (黄土塊多) 黄・黒色土が互層に見える
- 3: 暗褐色土 (黄色土ブロック微)
- 4: 黄色土ブロック
- 5: 暗褐色土 (黄色土含まず)
- 6: 黒褐色土 (～3cm 礫多、黄色土混)



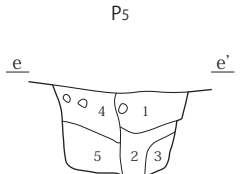
- 1: 黒褐色土 (こぶし大礫混)
- 2: 暗褐色土 (黄色土ブロック・こぶし大礫多)
- 3: 暗褐色土 (黄色土少)
- 4: 暗褐色土 (2層より明るい、黄色土ブロック少)
- 4': 暗褐色土 (3層の一部、黄色土多)



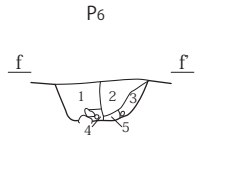
- 1: 暗褐色土 (黄色土含まない)
- 2: 暗褐色土 (～5cm 黄色土多)
- 3: 暗褐色土 (1層より明るい、こぶし大礫・～2cm 黄色土少) 抜き取り後の埋土
- 4: 暗褐色土 (1層より明るい、～3cm 黄色土まばらに含む) 抜き取り痕
- 5: 暗褐色土 (多量の黄色土に暗褐色土が混じる) 当初の埋土
- 6: 暗褐色土 (黄色土微) 当初の埋土
- 7: 暗褐色土 (4層より暗い、黄色土含まない) 当初の埋土



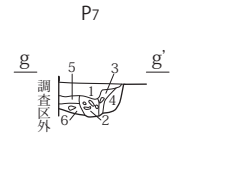
- 1: 暗褐色土 (黄色土含まない) 柱痕
- 2: 暗褐色土 (黄色土多)
- 3: 暗褐色土 (黄色土含まない)



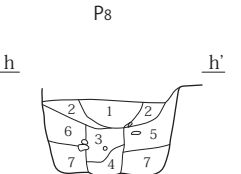
- 1: 褐色土 (黄色土含まない)
- 2: 褐色土 (1層とほぼ同じ、やや明るい)
- 3: 暗褐色土 (黄色土ブロック多)
- 4: 暗褐色土 (黄色土ブロック多)
- 5: 暗褐色土 (黒味が強い、黄色土微)



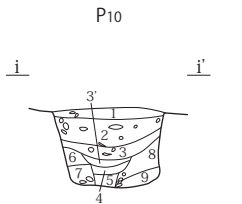
- 1: 黒褐色土 (～5cm 礫多、黄色土ブロック混)
- 2: 暗褐色土 (黄色土少、礫無し)
- 3: 暗褐色土 (1層より暗く5層より明るい、～2cm 礫少)
- 4: 暗褐色土 (3層より暗い、礫無し)
- 5: 暗褐色土 (礫無し)



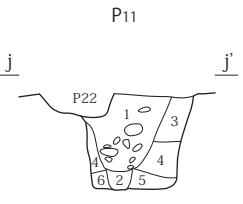
- 1: 暗褐色土 (～5cm 礫まばらに含む)
- 2: 暗褐色土 (3層より暗い、～5cm 礫多)
- 3: 暗褐色土 (～5cm 礫少、～1cm 黄色土含)
- 4: 暗褐色土 (2・3層より明るい、礫無し)
- 5: 暗褐色土 (1・4層より暗く2層によく似るが少し明るい、～2cm 礫含)
- 6: 暗褐色土 (2・5層より明るい、～2cm 黄色土含、礫微)



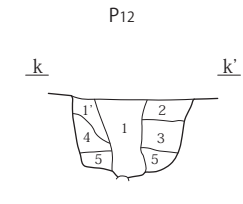
- 1: 暗茶褐色土 (黄色土含まない、～1cm 礫含)
- 2: 暗褐色土 (黄色土ブロック・～5cm 礫多)
- 3: 暗褐色土 (～10cm 黄色土ブロック多、5層より明るい、6層よりやや明るい、6層との境は5層の境に比べてわかりにくい) 柱痕
- 4: 暗褐色土 (黄色土含まない、7層より暗く柔らかい) 柱痕
- 5: 暗褐色土 (7層より明るい、～10cm 礫少)
- 6: 暗褐色土 (7層より暗い、～10cm 黄色土ブロック少)
- 7: 暗褐色土 (黄色土含まない)



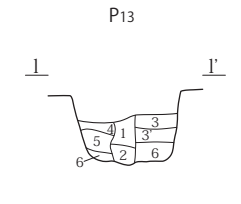
- 1: 黒褐色土 (～5cm 黄色土含、上面～30cm 河底礫が分布、～5cm 礫含)
- 2: 暗褐色土 (黄色土・～15cm 礫多)
- 3: 黒褐色土 (黄色土ブロック少、～15cm 礫含)
- 3': 黄色土 (黄色土のみ) 3層の続き
- 4: 暗褐色土 (黄色土・礫含まない)
- 5: 暗褐色土 (4層より暗い、黄色土・礫含まない)
- 6: 暗褐色土 (黄色土・礫含まない)
- 7: 暗褐色土 (～5cm 礫多、黄色土含まない)
- 8: 暗褐色土 (黄色土・礫含まない)
- 9: 暗褐色土 (7層より暗い、黄色土ブロック少)



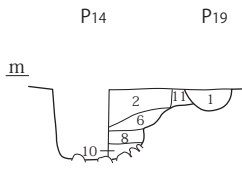
- 1: 黄褐色土 (黄色土に暗褐色土が混じる、～20cm 礫多)
- 2: 暗褐色土 (6・7層より暗い、黄色土・礫含まない)
- 3: 暗褐色土 (黄色土少)
- 4: 暗褐色土 (3層より明るく6層より暗い、黄色土・礫含まない)
- 5: 暗褐色土 (黄色土ブロック少)
- 6: 暗褐色土 (黄色土少)



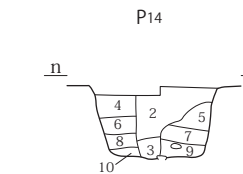
- 1: 暗褐色土 (～3cm 黄色土ブロック含、下層ほどブロック多) 柱痕
- 1': 暗褐色土 (1層と同じだが黄色土ブロックほとんど含まない) 柱痕
- 2: 暗褐色土 (4層と似る、～3cm 黄色土ブロック多、1層より黄色土多)
- 3: 暗褐色土 (黄色土ブロック1層より少ない)
- 4: 暗褐色土 (～3cm 黄色土ブロック多)
- 5: 暗褐色土 (黄色土含まない)



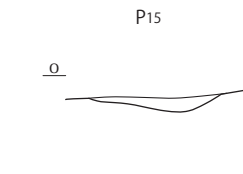
- 1: 暗褐色土 (2層より茶色味を帯びる) 柱痕
- 2: 暗褐色土 (～1cm 黄色土少、炭化物含) 柱痕
- 3: 暗褐色土 (黄色土ブロック少)
- 3': 暗褐色土 (黄色土ブロック多)
- 4: 暗褐色土 (黄色土含まない)
- 5: 暗褐色土 (～10cm 黄色土ブロック多)
- 6: 暗褐色土 (黄色土ブロックわずかに含む)



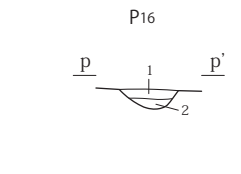
- 1: 暗褐色土 (2層より暗く黄色土少なく若干柔らかい、～5cm 礫多)
- 2: 暗褐色土 (～1cm 黄色土微)
- 3: 暗褐色土 (2層より明るい)
- 4: 黒褐色土 (黄色土ブロック多)
- 5: 暗褐色土 (黄色土少ない)



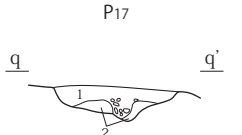
- 6: 暗褐色土 (黄色土少ない)
- 7: 暗褐色土 (黄色土多)
- 8: 暗褐色土 (黄色土多)
- 9: 暗褐色土 (黄色土含まない)
- 10: 暗褐色土 (黄色土含まない)
- 11: 暗褐色土 (黄色土微粒少)



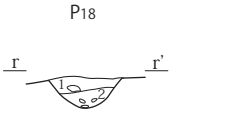
- 暗褐色土 (黄色土ブロック多)



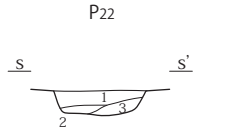
- 1: 暗褐色土 (～5cm 礫多、黄褐色土ブロック少)
- 2: 暗褐色土 (1層より暗い、黄褐色土ブロック中)



- 1: 暗褐色土 (～5cm 礫多)
- 2: 暗褐色土 (黄色土多、礫無し)

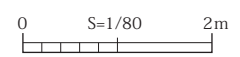


- 1: 暗褐色土 (～5cm 礫多、黄褐色土ブロック少)
- 2: 暗褐色土 (1層より暗い、黄褐色土ブロック中)



- 1: 暗褐色土 (～1cm 黄色土・～5cm 礫少)
- 2: 暗褐色土 (～3cm 礫多)
- 3: 暗褐色土 (1・2層より明るい、～2cm 黄色土少)

標高基準線はすべて643.018m



第 14 図 柳田遺跡掘立柱建物断面図

P5・P11・P12・P14)、水平に埋め戻したような状況を呈すもの(P2・P10)がある。P8・P10は埋土の上層に径10～20cmの垂円礫が集めてあった。この12基の他に規模の小さいP6・P7の2基も位置からみて本址に伴うもので、柱痕に関わる土層が残る。このほか一帯にはP15～P22の大小8基のピットが本址に重複するように分布し、いずれにも柱痕らしき土層はないが位置的に本址に関連がある遺構と推定する。

遺物は土師器と須恵器の細片が試掘時と本調査の検出面からごく少量出土したのみで、詳細はわからない。時期は須恵器片がある点から8世紀後半～9世紀前半頃と推定したいが確実ではない。

(※2次調査で建1・2が確認されているため、3号とした。)



柳田遺跡調査区全景（南から）



柳田遺跡調査区全景（西から）



## V 総括

### 1 掘立柱建物の規模

今回報告の両遺跡の掘立柱建物は非常に規模の大きいもので、建物全体と個々の柱掘方でそれがいえる。建物全体では、本郷高田遺跡の掘立柱建物（以下「高田建物」と略す。柳田遺跡も同様。）が梁行2間、桁行3間以上、柳田建物は梁行3間、桁行4間以上（南辺の中間の2柱穴が小さいので、さらに南に続くと推定）としか把握できていないが、面積は高田建物が46.8㎡以上、柳田建物が74.5㎡以上となる。参考までに松本市内で発見された古代の掘立柱建物のうち面積が40㎡以上について第4表に集成したが、現況でも柳田建物は最大、高田建物は7位にあり、いずれも全形が把握できればさらに大きくなることは確実である。また、面積だけでなく掘方の径も他例に比べ突出していることがわかる。

### 2 掘立柱建物の掘方埋土

高田建物の掘方はすべて水平に埋められておりP6を除く7基で柱痕が確認できた。柳田建物の掘方は多様で、規模の大きい12基には柱痕があるものと抜き取り痕のような土層が伴うもののほか、下部に柱痕状の土層を残しながら上部は水平に埋め戻された状況を呈するもの（P2・P8・P10）がある。このうちP8とP10には上部や上層に大きな礫が集められており、現地を視察された宮本長二郎氏からは掘立柱を礎石立ちに改修した可能性があることを指摘された。

### 3 本郷高田遺跡の出土土器構成について

土器を実見した鳥羽英継氏からは「食膳具で歴史時代的須恵器（杯A、杯蓋Aなど※筆者注）が圧倒的に多く、土師器が少ないという特徴がある。7世紀後半代は、時代の先を行く先進的な集落（官衙に近いところなど）は須恵器が多く、その周辺の一般的集落では須恵器が少なく（場合によっては須恵器がなく）土師器が多いという特徴を持つことを考えると、この集落は時代の先端を行く集落（官衙的な集落か、それに近い集落）の可能性がある。」というコメントをいただいている。

### 4 古代史への視点

今回報告の遺跡周辺では希少な遺物の出土が目立つ。南隣の大村遺跡からは鴟尾を伴った多量の瓦や多数の緑釉陶器、鈿帯金具、陶硯、同じく大輔原遺跡の北部からも数点の陶硯、鈿帯金具の出土がある。加えて今回報告の大形掘立柱建物の存在は、この一帯が古代筑摩郡の推定領域の中で特異な場所ということができる。長野県の古代史研究で以前から課題となっていた日本書紀が記す「束間温湯」や、令制東山道、信濃国府などの位置究明を進めていくうえで、これら発掘成果の検討が進むことを期待している。

遺跡・調査名	遺構名	梁×桁(間)	梁×桁(m)	面積(㎡)	掘り方径(cm)	時期	備考	文献
柳田3次	3号	3×4以上	7.2×10.2以上	73.4以上	130～160	4～6期?	側柱	本書
小池1次	1号	3×6	5.7×12.5	71.3	84～136	7～8期	側柱、2面庇・孫庇	8
宮の前	4号	2×5	5.7×10.7	61	72～124	3～4期	側柱、2面庇	9
小池1次	2号	3×6	5.8×10.3	59.7	40～104	7～9期	側柱、2面庇	8
宮の前	1号	2×3	5.4×9.5	51.3	40～116	特定不能	側柱	9
南栗(高速道地点)	ST560	3×5	5.54×9.08	50.3	96～126	1～2期	側柱、庇	11
本郷高田	1号	2×3以上	5.3×8.8以上	46.6以上	130～160	7C後半～末	側柱	本書
三間沢川左岸2次	13号	2×5	4.28×10.6	45.4	30～60	8期	側柱	10
南栗(高速道地点)	ST538	3×4	5.19×8.54	44.3	68～95	2～3期	側柱、庇	11
北栗(高速道地点)	ST8	2×3	4.06×10.44	42.4	65～90	～7期?	側柱	12
宮の前	5号	2×4	5.2×8.0	41.6	58～120	3～4期	側柱	9
千鹿頭北1次	6号	4×5	5.4×7.6	41	60～110	7C後半	大壁建物	7

第4表 松本市内発見の大形掘立柱建物一覧（面積40㎡以上のもの）



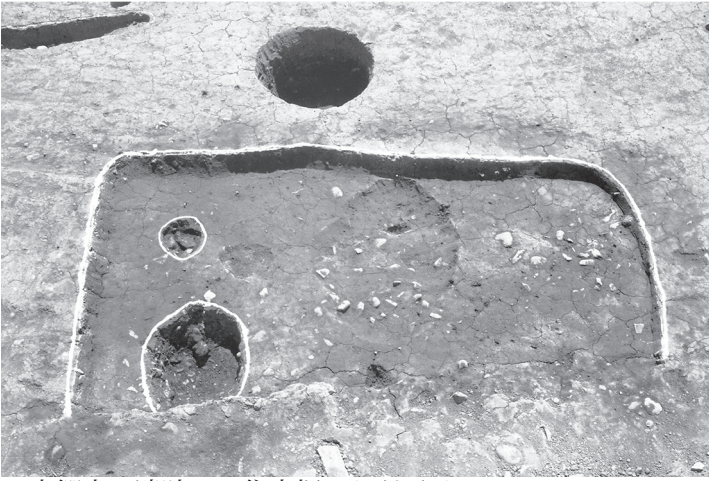


本郷高田遺跡 A 区全景（西から）



本郷高田遺跡 B 区全景（北東から）





本郷高田遺跡 1住完掘 (西から)



本郷高田遺跡 2住完掘 (南から)



本郷高田遺跡 2住遺物出土状況 (38)



本郷高田遺跡 3住完掘 (北から)



本郷高田遺跡 3住遺物出土状況 (北から)



本郷高田遺跡 3住遺物出土状況 (43)

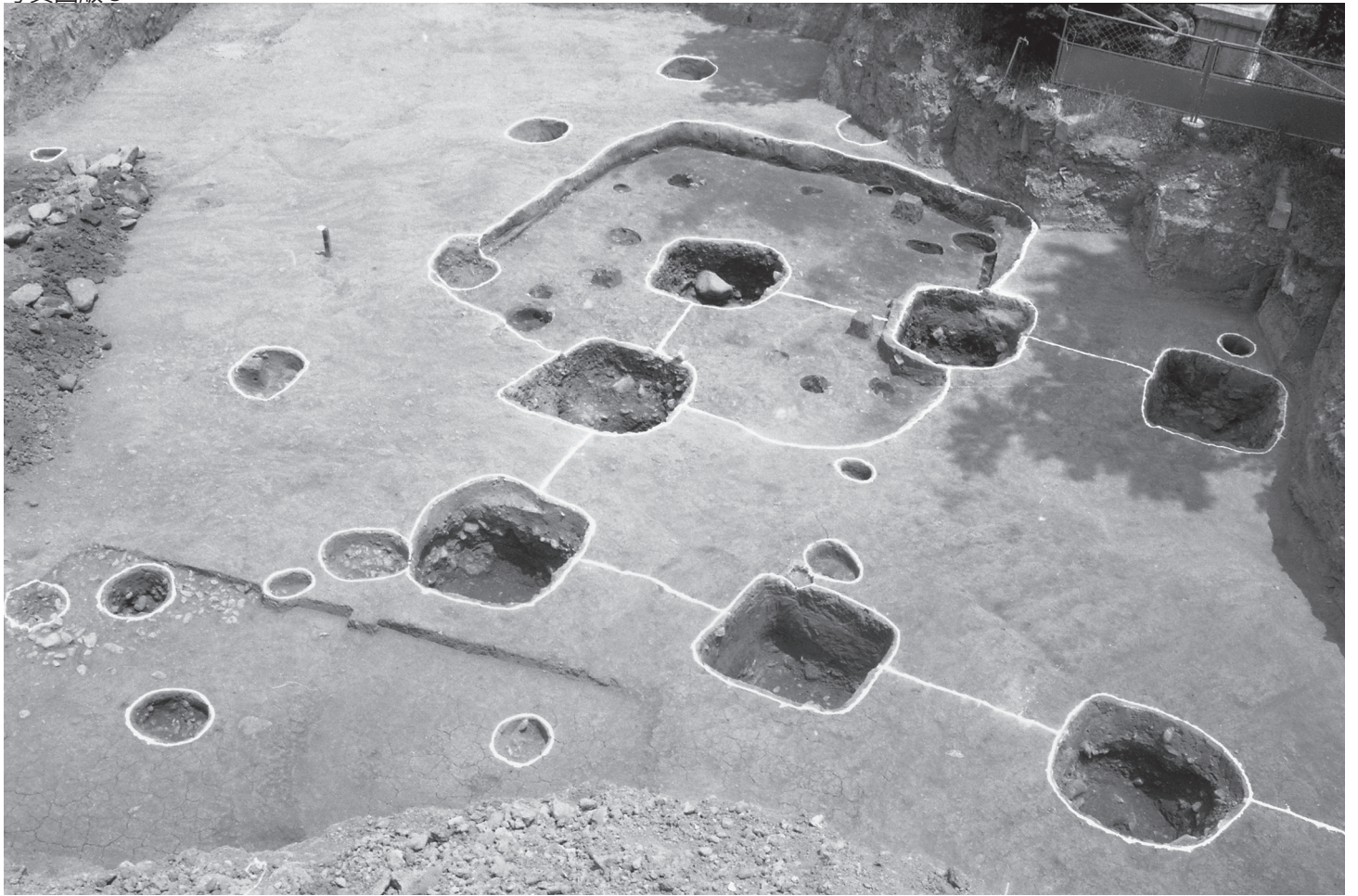


本郷高田遺跡 豎1遺物出土状況 (北西から)



本郷高田遺跡 表土剥ぎ





本郷高田遺跡建1（南西から）



本郷高田遺跡建1 段掘り（北から）





本郷高田遺跡 掘方 P1 半割



本郷高田遺跡 掘方 P3 半割



本郷高田遺跡 掘方 P4 半割



本郷高田遺跡 掘方 P5 半割



本郷高田遺跡 掘方 P6 半割



本郷高田遺跡 掘方 P7 半割

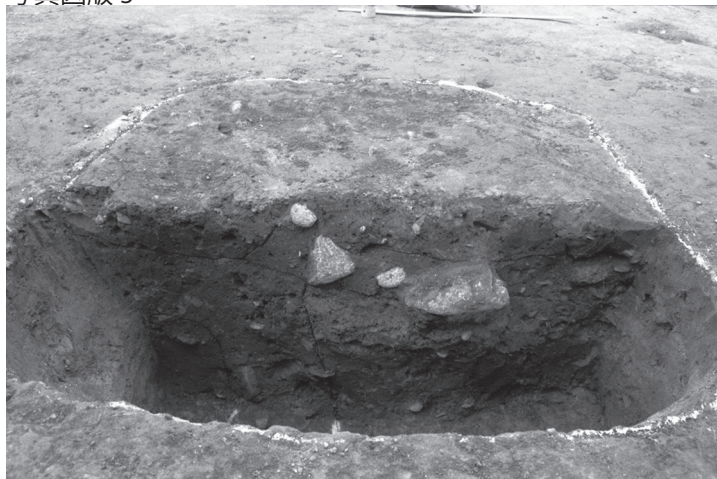


本郷高田遺跡 掘方 P8 半割



本郷高田遺跡 調査スナッフ





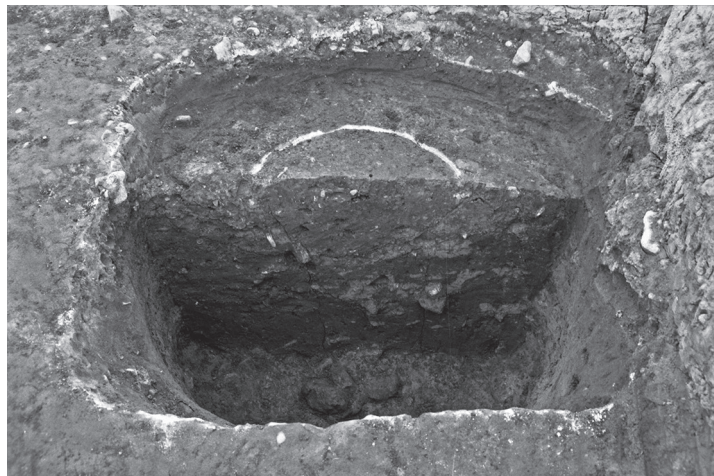
柳田遺跡 掘方 P3 半割



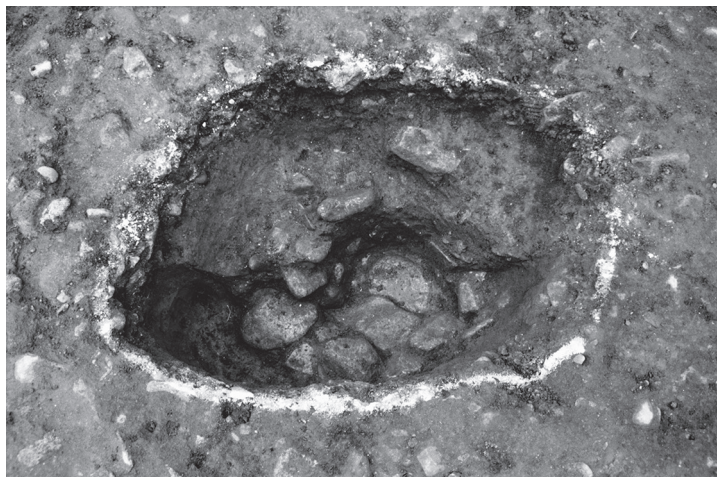
柳田遺跡 掘方 P5 半割



柳田遺跡 掘方 P8 上部



柳田遺跡 掘方 P8 半割



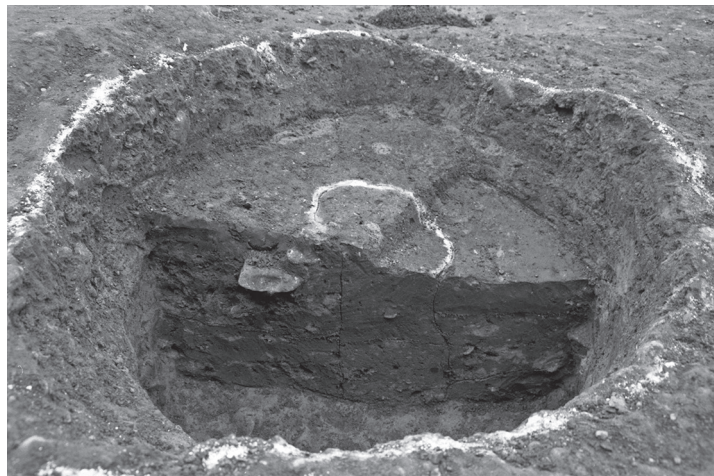
柳田遺跡 掘方 P6 半割



柳田遺跡 掘方 P10 半割



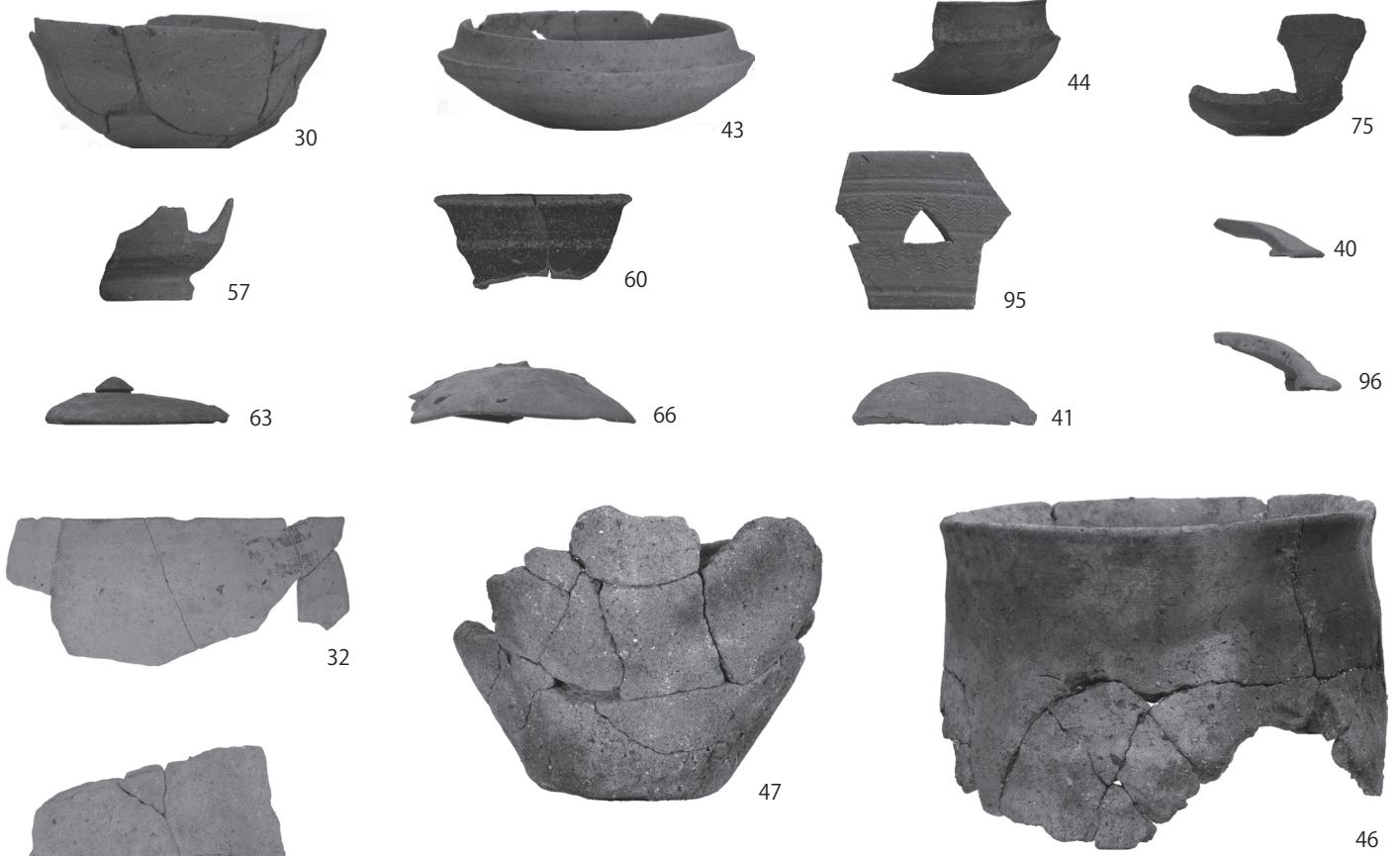
柳田遺跡 掘方 P12 半割



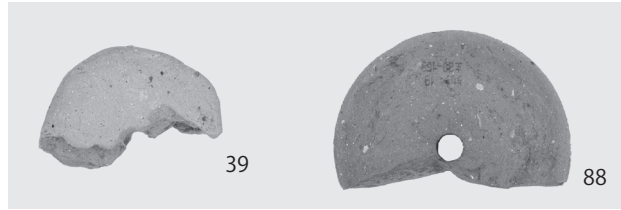
柳田遺跡 掘方 P13 半割



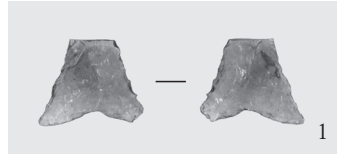
土器・土製品 (約 S=1/3)



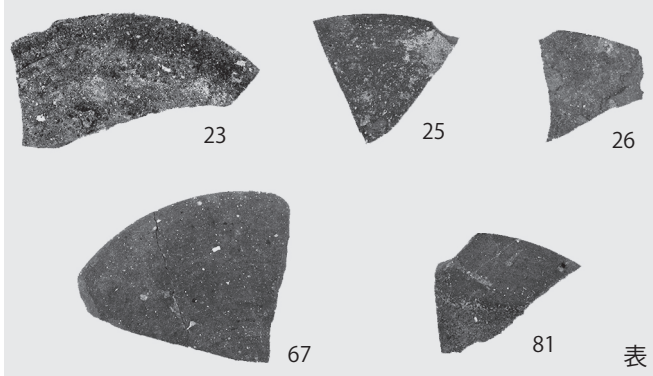
紡錘車 (S=1/2)



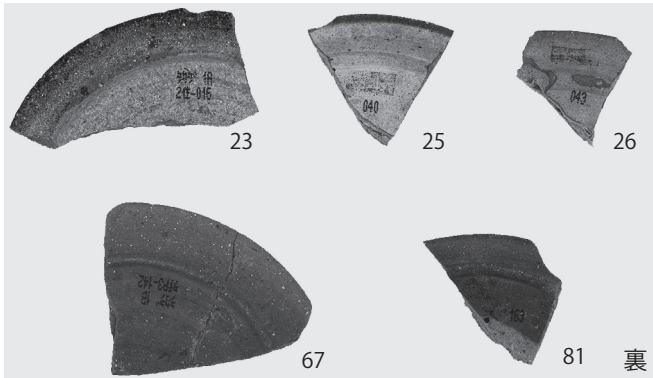
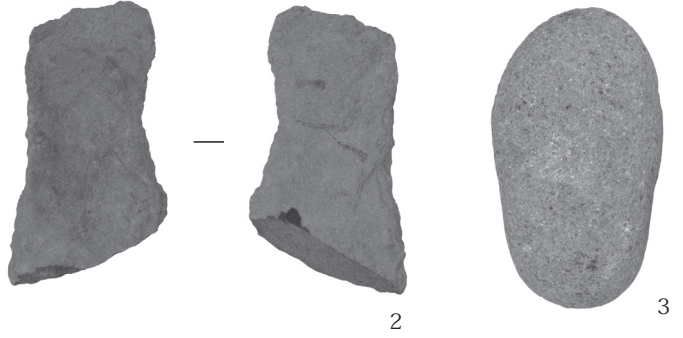
石鏃 (原寸大)



須恵器杯蓋 A (S=1/2)



石器 (S=1/2)



報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし ほんごうたかだいせき・やなぎだいせきだい3じ はつくつちようさほうこくしよ							
書名	長野県松本市 本郷高田遺跡・柳田遺跡第3次 発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.252							
編著者名	直井雅尚、原田健司							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2024(令和6)年9月30日 (令和6年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ほんごうたかだ 本郷高田	ながのけんまつもとし 長野県松本市 あさまおんせん 浅間温泉 にちょうめ 二丁目9-2	20202	66	36度 15分 45秒	137度 59分 10秒	19940516 (H6.5.16) ～ 19940613 (H6.6.13)	889.2 m <sup>2</sup>	のぼら保育園 建設事業
やなぎだ 柳田	ながのけんまつもとし 長野県松本市 あさまおんせん 浅間温泉 いっちょうめ 一丁目214-1	20202	69	36度 15分 32秒	137度 59分 06秒	19980604 (H10.6.4) ～ 19981009 (H10.10.9)	209.86 m <sup>2</sup>	消防団詰所 建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
本郷高田	集落跡	縄文	竪穴状遺構 1基 土坑 9基 ルームマウンド 1基	縄文土器 石鏃、石錐、打製石斧 凹石、磨石		・縄文時代前期の土器・石器が出土した。		
		古墳	竪穴建物 (第1～3号住) 3棟 掘立柱建物 1棟 土坑 19基 ピット 19基	土師器、須恵器、土製品 (須恵質の紡錘車)		・古墳時代末の大形掘立柱建物が発見された。須恵器の器台が出土した。		
		中世?		銭貨片 (開元通宝?)				
柳田	集落跡	奈良 平安	掘立柱建物 1棟	土師器、須恵器		・奈良時代後期～平安時代前期と推定される大形掘立柱建物が発見された。		
要約	<p>・本郷高田遺跡と柳田遺跡第3次の発掘調査で、いずれも市の建設事業に伴う緊急発掘として実施した。本郷高田遺跡では縄文時代と古墳時代の遺構と遺物が発見され、古墳時代末期の7世紀後半に属すると推定される大形の掘立柱建物1棟が伴っていた。柳田遺跡では奈良・平安時代の遺構と遺物が発見され、奈良時代後期から平安時代前期に属すると推定される大形の掘立柱建物の存在が確認された。いずれの掘立柱建物もきわめて規模が大きく、官衙など公的な機関や施設に付随する遺構の可能性がある。</p>							

松本市文化財調査報告No.252

長野県松本市

本郷高田遺跡・柳田遺跡3

－発掘調査報告書－

発行日 令和6年9月30日

発行 松本市教育委員会

〒390-8620 松本市丸の内3番7号

印刷 電算印刷株式会社